

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 岩内町

自治体名：北海道岩内町

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0135-67-7099

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	70.60 km ²
人口	10,938 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	252 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

公立中学校は2校で、第一中学校単独部活動は、卓球、陸上競技、男子バスケットボール、バレーボール、サッカーの5部活動、第二中学校単独部活動は、卓球、男子バスケットボール、女子バレーボールの3部活動、2校合同部活動は野球、女子バスケットボールの2部活動である。

休日においても教職員が部活動の指導を行っており、負担が大きい。

【課題】

休日のスポーツ活動を行う、地域クラブを教育委員会で設立、運営を目指す。

地域クラブにおける指導者の確保。

保護者をはじめとする関係団体（者）の部活動に対する意識改革。

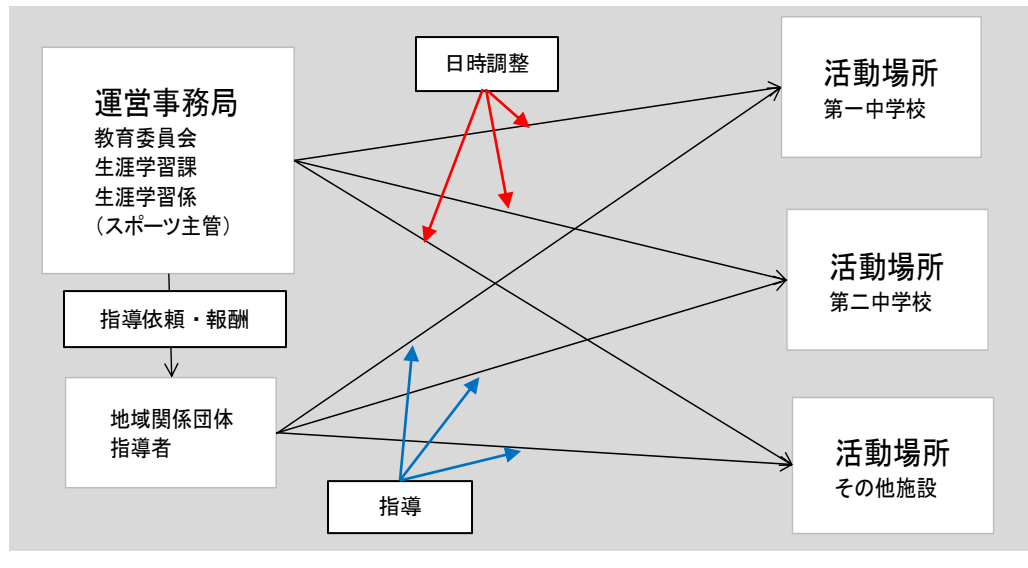
令和6年度 生徒児童数

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
第一中学校			41人	61人	32人
第二中学校			39人	29人	31人
東小学校	38人	34人			
西小学校	34人	32人			
計	72人	66人	80人	90人	63人

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習課…地域クラブの設立、運営 地域スポーツ活動の推進
- ・子ども未来課…学校教育活動、部活動

◎首長部局

- ・企画財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和7年2月	スポーツ講演会（指導者向け）
令和7年2月	スポーツ講演会（野球練習会）
令和7年2月	地域クラブ実証事業

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
地域クラブ	教育委員会	陸上競技	2月 1、8、11、15日 4回	9時～ 12時	中学生 1、2年生	2月	第一中学校	1 人	1 人	なし	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 2月7日 スポーツ講演会 講師 佐藤幹夫氏 札幌山の手高校ラグビー部総監督
- 2月15日 スポーツ講演会（野球練習会） 講師 本間篤史氏 元駒澤大学附属苫小牧高等学校野球部主将

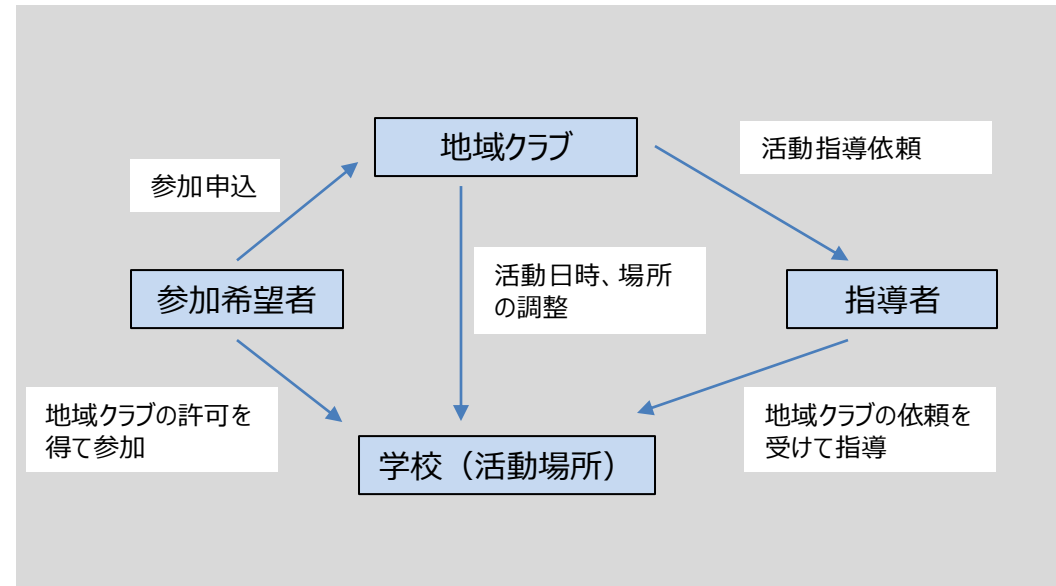
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	地域クラブ
期間と日数	2月1日、8日、11日、15日 4日間
指導者の主な属性	地域の陸上競技経験者 陸上競技審判資格あり 第一中学校陸上部外部コーチ
活動場所	第一中学校
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者 1名

役割：活動者の出席確認、活動中の指導を行う

●運営スタッフ 1名

役割：指導者、活動希望者の保険加入手続き

活動日時、活動場所の調整、活動希望者への周知、

指導者へ謝金支払い

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会が主体となって行う地域クラブ運営のため、統括コーディネーターを配置。

取組の成果

1 2月より、地域クラブ活動推進協議会要綱の作成を手がけ、1月に成立させた。
地域クラブの実証事業を2月に行った。第一中学校陸上競技部に協力を依頼し、外部コーチに地域クラブの指導者を依頼し、部員を地域クラブ参加者として活動を行った。部活動顧問がいない中での活動であったが、外部コーチである指導者の指導のもと、戸惑うことなく活動することができ、部活動顧問についても4日間（計12時間）休日とすることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・地域クラブ指導者、参加者の保険加入手続き
- ・活動日時、活動場所の調整、活動希望者への周知
- ・指導者へ謝金支払い

今後の課題と対応方針

今回は部活動の外部コーチに指導を依頼し、参加者も部活動部員だったため、部活動の延長のような形で実施することができたが、部活動に携わっていない指導者に依頼したり、参加者を部活動部員以外に増やした場合、部活動顧問との連携や対応する指導者を複数人にする検討が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

スポーツ講演会
(指導者向け)

活動の詳細

参加人数	62人
具体的な内容	道内スポーツ強豪チームの監督として、札幌山の手高等学校ラグビー部総監督「佐藤幹夫」氏を講師に招き、地域スポーツのこれまでと今後について講話いただいた。
運営経費	講師謝礼 15万円 講演会場使用料 ○岩内地方文化センター大ホール 公用使用とし無料とした。

令和6年度 岩内町スポーツ講演会

札幌山の手高校ラグビー部総監督
北海道ラグビーフットボール協会理事長

【講師】 **佐藤幹夫**

【演題】 **No Pain, No Gain**

【講師プロフィール】
1961年 小樽生まれ
小樽潮陵高校卒業
国士館大学卒業

教員として羽幌高校、豊浦高校などを経て、1988年札幌山の手高校に赴任。同年4月にラグビー部を立ち上げる。部員3名から始まったチームは3年目に初勝利、7年目に全道大会に初出場し準決勝進出。2000年に創部13年目にして初の花園出場を果たす。以降連覇は途切れることなく2014年には15連覇を達成。教え子には長く日本代表キャプテンを務めたリーチマイケル選手がいる。

ぜひ今年も今年も80か
去年10分、今年も10分
がんばりまーす!!

名將の指導哲学

ラグビーを通して人間的に成長させること
「技術や目先の勝利よりも」
「礼儀」や「仲間への思いやり」
「感謝の心を持てる人間育成」

と き 令和7年2月7日(金) ところ 岩内地方文化センター
開 場 18時00分～ 開 演 18時30分～
入場料 無 料 お問い合わせ先 岩内町教育委員会 生涯学習課
0135-67-7099

主 催 岩内町教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組の成果

教職員やスポーツ関係者が参加者の大半を占めた。

講演では、教員になるまでの異色の経歴から、全国大会常連校になるまでを、体験談を交えた楽しい話に加え、チームワークや人間的成長についての考えを学んだ。



今後の課題と対応方針

指導者講習会などを開催し、地域の指導者の発掘や、指導力の向上につなげる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

スポーツ講演会
 (野球練習会)

活動の詳細

参加人数	113人 うち児童生徒28人
具体的な内容	道内スポーツ強豪チームの監督として、江別ブルーインズアカデミーの「本間篤史」氏を講師に招き、トレーニング方法のアドバイスなどを講話いただいた後、児童生徒を対象とした練習会を実施した。
運営経費	講師謝礼 16万円 講演会場使用料 ○岩内地方文化センター大ホール 公用使用とし無料とした 練習会会場使用料 ○岩内東小学校体育館 公用使用とし無料とした

令和6年度 岩内町スポーツ講演会(野球練習会)

【経歴】 元大宮小牧4番打者
JR北海道
トランス

【演題】 「俺の野球人生」

【講師】 本間篤史氏
元駒澤大学付属高小牧高校野球部監督
元社会人野球チームTRANSYS(ランニング)選手兼監督

野球少年少女、野球をやっていない児童生徒も大歓迎です。
練習会は、各自グローブ、上靴をご持参ください。待っています。

【講師プロフィール】
1988年余市町出身。高校2年夏は駒大苫小牧の4番打者として、全国選手権連覇を達成。3年夏は斎藤樹樹擁する早稲田実業に延長再試合の末敗退し、準優勝。同期には田中将大(巨人)というスーパーエースが存在。高校野球ファンからは「メガネ主将」と呼ばれた。その後は亜細亜大学、JR北海道、社会人野球チームTRANSYSでプレーを続け現在に至る。

講演会 とき 令和7年2月15日(土) ところ 岩内地方文化センター
開場 13時30分～ 開演 14時00分～ 入場料 無料

練習会 とき 同日(講演会終了後) ところ 東小学校体育館
15時30分～16時30分 参加料 無料

主催：岩内町教育委員会 お問い合わせ先：岩内町教育委員会生涯学習課 0135-67-7099

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

講演会のほか、野球練習会を予定したことにより、親子での参加が多かった。

講演では、色々なスポーツに挑戦する重要性、自分で考え行動すること、継続することの重要性など、小中学生にもわかりやすく、またプレーヤーに対しての保護者の向き合い方などのアドバイスもあった。

練習会では中学生を中心に、小学生や幼児も練習に参加し、本間氏の動きをみながら、動きのコツを学ぶことができた。



今後の課題と対応方針

著名人を招くことにより、その競技への関心が高まる。今後も体験の幅を広げるためにも企画していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

昨年度より、教育委員会が主体となって、休日の地域クラブ活動を行う方針ですすめており、地域クラブ設立のため、中学校の協力を得て一部の部活動で実証事業を行い、今後において、地域指導者が確保できる部活動種目から実証事業を進めていく計画でしたが、本年度は、マンパワーが足りず、当初の事業計画どおりに事業を進められることができなかった。教育委員会で進めようとしている地域クラブの活動の構想が固まりつつあるため、学校、保護者、地域の理解を得ながら、休日の活動を確立させたい。

また、地域移行の理解を深めるよう、運動部員や指導者に対し、道内スポーツ強豪チームの監督を講師に招き、講演会やスポーツ教室を実施することにより、地域でのクラブ活動の士気を高め活性化を図った。

●成果の評価

2回行ったスポーツ講演会により、スポーツに携わろうとしている人が少なくないことを確認できた。指導者が第一だが、指導といかないまでも活動をささえる人という形で協力が得られれば、休日の地域クラブの活動も進むのではないかと感じた。

●今後に向けて

地域クラブの休日の活動を増やしていけるよう、指導者等の確保に向け関係団体や保護者に協力を依頼する。

広報資料

【令和7年2月号広報紙】

くらしのガイド

2月7日は「北方領土の日」です
 北方領土の日特別啓発期間の2月20日(土)まで、夜間(20時～22時)に、岩内市に設置されている「北方領土の日」の看板を点灯しています。この機会に、北方領土の現状や、岩内市が取り組んでいる北方領土のまちづくりについて、ぜひご覧ください。

落雪雪害防止
 毎年、建物からの落雪や、雪崩、雪害事故が発生しています。次のことに注意しましょう。
 ●雪止めの点検を行い、破損等がある場合は修理しましょう。
 ●雪止めは早めに複数人で行うようにし、歩行者や子どもに十分注意してください。
 ●ビルの壁、窓枠、突出物等に付着した雪は早急に除去しましょう。
 ●雪下を通行するときは屋根からの落雪や雪崩に注意しましょう。
 ●雪下や屋根では、絶対に子どもを遊ばせたりしないでください。
 ●落雪や雪崩があった場合は、直ちに自衛者がいないか確認し、水害等を除去しましょう。
 ●屋根からの落雪や敷地内の積雪を道路に出さないようにしてください。

小樽市建設部
 ☎0134-235259



2月は下水道事業 受益者負担金の納付月
 納付期限は、2月28日(金)です。納め忘れに注意してください。納付は銀行や郵便局又は役場で、お振替の手続きは銀行で可能です。

国民年金の「前納割引制度」
 国民年金保険料は、前納すると割引になる制度があります。(最大2年分前納できます)
 ●口座振替やクレジットカード、現金納付の方法がありますが、口座振替やクレジットカードの場合は事前に申請が必要です。
 ●口座振替、クレジット、カード納付
 ◆申請期限/2月末日まで
 ◆納付期限/4月末日まで
 岩内市役所 小樽市事務所
 ☎0134-335226



教育委員会
 ☎0134-7099



岩内市役所
 ☎0134-7099

イベント

スポーツ講演会
 参加料は無料、申込みは不要です。

【第1回】
 ●2月7日(金) 18時30分
 ●文化センター
 講師/佐藤 幹夫氏
 (札幌市の元ラグビー選手、現監督)

【第2回】
 ●2月15日(土) 14時30分
 ●文化センター
 講師/本間 浩史氏
 (元東海大学付設岩内高等学校野球部監督、05甲子園優勝)

道営住宅入居者募集

団地名	規模	住戸数	募集区分	家賃の範囲
栄夕陽ヶ丘1部棟	2DK	52.9㎡	一般	15,800円～31,000円
野東2号棟2部棟	3LDK	69.2㎡	一般	16,600円～32,600円
野東3号棟1部棟	3LDK	69.2㎡	一般	16,800円～33,000円
野東4号棟2部棟	3LDK	69.3㎡	一般	17,100円～33,600円
野東5号棟1部棟	3LDK	71.2㎡	一般	20,000円～39,200円
野東6号棟1部棟	2LDK	59.0㎡	一般	16,400円～32,200円

※今回は単身者用の募集はありません。
 ※4月から家賃・駐車場代改定予定

問合せ・申込み エムエムエスマンションマネジメントサービス株式会社 ☎0134-34-1373

【北海道新聞 2月13日掲載(朝刊後志版)】

「生徒に情熱持ち指導を」

札幌山の手高ラグビー部 佐藤総監督が講演

【岩内】ラグビー日本代表の指導を務めた、チ・マイケル選手を育てた札幌山の手高ラグビー部監督の佐藤幹夫さんが、岩内地方文化センターで開かれた。佐藤さんは強い選手を育てるために「答えを教えるティーチング」と、答えを自分で導かせる「コーチング」で指導することの大切さを語った。

町教委の主催で7日に七つのテーマに合わせた150個のキャンドルが並び、作品展

小樽の銀世界などキャンドルで表現
 米沢さんが作品展
 小樽在住のキャンドル

講演会では来場者からの質問に答える佐藤さん

開かれ、約100人が来場した。佐藤さんは母校の小樽山の手高でラグビーに出会った後、ラグビーを通じて多くの人がつながり、生徒たちと触れ合ってきた自身の歩みを紹介。来場した教職員らには「生徒たちには情熱を持って指導してほしい」と語りかけた。

町在住の教職員、青柳聖さんは「生徒さんへ思いで向き合うが、気持ちの大切さを感じました」と話した。

(藤田邦夫通信)

【北海道新聞 2月16日掲載(朝刊後志版)】

「深く考え練習重ねて」

岩内甲子園V本間さん講演

【岩内】元駒太吉小牧高野球部監督で、2005年の夏の甲子園優勝チームのメンバーだった本間篤史さん(36)が、岩内市出身の講演会が15日、岩内地方文化センターで開かれた。本間さんは「自分で深く考えた練習を積み重ねてほしい」と強調した。

町教委の主催で、岩内や共和などの幼稚園児や小中学生、保護者ら約110人が参加した。本間さんは「野球での進学やプロ入りを考えるなら、他人に任せず、自分に厳しくしてほしい」と励ました。

講演会後には岩内東小体育館で、野球の基礎の練習会も行った。本間さんは「いいよ」「OK」など声をかけながら、投球や走塁、打撃の基本を子どもたちに指導。友達同士で参加した岩内町の幼稚園児、小林蓮ちゃん(6)と中山蒼斗ちゃん(6)は「キャッチボールが楽しかった」、勉強が楽しかったと笑顔を見せた。

(青山修一)

盗塁を想定して、走り出す時の姿勢を小中学生に指導する本間さん(左)

「北海道新聞提供」著作物利用許諾番号29935」

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【2月7日スポーツ講演会】



【2月15日スポーツ講演会（野球練習会）】



【地域クラブ実証事業】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

教育委員会、学校、スポーツ団体、統括コーディネーター

経過

令和5年度より、教育委員会で運営する地域クラブ設立を目指し、中学校の協力を得て一部の部活動で実証事業を行ってきた。令和6年度には地域クラブ推進協議会要綱と地域クラブの規約の素案を策定し、協議会では、その規約の審議を考えている。

実施内容

実証事業の内容は、現在、部活動の外部コーチとして部活動に関わっている地域ボランティア指導者に、地域クラブ指導者となっていただき、休日に部活動を休みとし、顧問教員がいらない中で、部活動部員に対し活動を行った。教育委員会では、生徒の保険加入や活動日時場所などの調整を行った。

実施にあたって生じた課題

これまで行った実証事業は、指導者がもともと外部コーチであったため、活動についての課題は生じてないが、現在活動している部活動すべてに外部コーチがいるわけではないので、指導者の確保が課題であり、もともと部活動と関わりのない指導者となった場合の部活動の指導方針などの共有方法などの課題が考えられる。また、休日の大会等の引率についても指導面、費用面ともに課題であると認識している。

今後の展開

令和8年4月からは、町内の4つすべての小中学校が一つの義務教育学校になることもない、休日の部活動は行わない方針で進んでいるので、教育委員会で運営する地域クラブで休日の活動を補っていきよう、現存している部活動指導者（教員の兼職兼業も視野に入れながら）の確保に向けて取り組んでいく。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

岩内町における部活動の地域展開に向けた基本構想

【基本理念】

子どもたちにとって、望ましいスポーツ・文化芸術環境の実現

・少子化 ・働き方改革 ・地域連携 → 子どもを取り合うのではなく、子どもの想いを形にする環境整備

Before 現在の体制

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（H30 スポーツ庁）

平日	週末
・少なくとも1日は休養日 ・活動は2時間程度 ・担当は顧問教員（時間外手当はなし） ・運営は学校 ・保険の加入は学校	・少なくとも1日は休養日 ・活動は3時間程度 ・担当は顧問教員（日額2,700円） ・運営は学校 ・保険の加入は学校 ・大会引率は顧問教員

部活動を学校だけで行っていくことは難しい・・・令和7年学習指導要領も見直されました。

- （1）学校と地域クラブとの連携等に関する記載の新設
- （2）部活動の現状の位置付けの明確化
- （3）部活動における多様な生徒・ニーズへの配慮



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和7年度移行期における取組

週末地域展開できる条件

- 中体連・中文連に、クラブとしての参加が可能
- 担当の地域の方を確保できる（教員の兼職も可能）



展開できる部活動から積極的に展開し、令和8年度の完全移行をめざします。そのために、地域の人材をできるだけ確保していきます。また、令和7年度は、保護者負担が増えたり、生徒に不都合が起きたりすることはないように調整を図ります。

After 令和8年度（岩内中央学園開校時）

平日	週末
・少なくとも1日は休養日 ・活動は2時間程度 ・担当は顧問教員（時間外手当はなし） ・運営は学校 ・保険の加入は学校 →基本的に変更無し	・少なくとも1日は休養日 ・活動は3時間程度 ・担当は地域の方（1h1,600円、日額4,800円） ※地域の方には、兼職兼業発令した教員も含まれる ・運営は岩内クラブ（教育委員会） ・保険の加入は岩内クラブ ・大会引率 - 学校として参加の場合は顧問教員 - 岩内クラブとしての参加の場合は地域の方



平日は基本的に変更はありませんが、週末に部活動を地域に展開していくことで、持続可能な環境の整備を目指します。もちろん、教員も地域の方として参加可能、手当も向上します。ゆくゆくは、平日の展開も視野に入れて行きます。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 余市町

自治体名：北海道余市町

担当課名：教育委員会 学校教育課

電話番号：0135-21-2138

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	141 km ²
人口	16,951 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	347 人
運動部活動数	13 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置していない
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

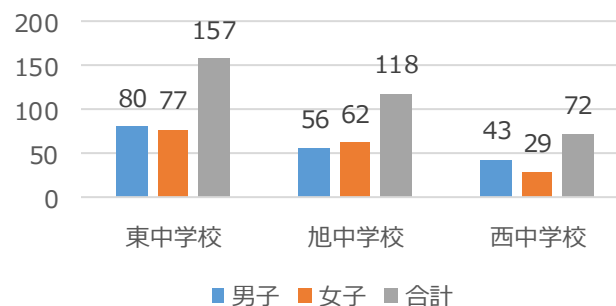
余市町では、他の自治体と同様に人口減少、少子化により部活動及び教員数の減少が進んでおり、生徒が本来希望しているスポーツ活動ができない場面が散見され、また、競技経験のない種目を指導することが負担になっている教員が存在している状況にある。

一方では、熱心に指導している教員もいることから、部活動の地域移行を進めるために外部の部活動指導員の他にこれらの教員を兼業兼職の地域指導員として活用している。

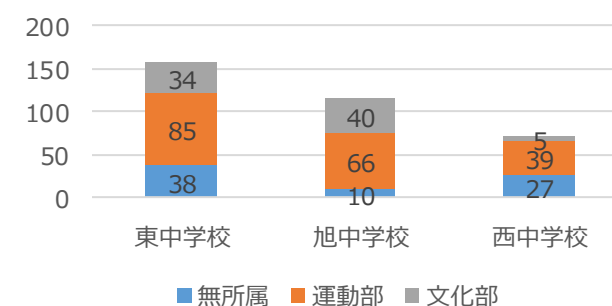
人数の多い団体競技(軟式野球、サッカー)は単独校での活動がままならないことから学校部

活動から地域への移行が進んできているが、その他の競技(バスケット、バレー、バドミントン)においては、現段階で単独校での大会参加ができる状況にあるため、学校間の交流や地域移行に向けた具体的な動きは遅い。

中学校別生徒数（人）



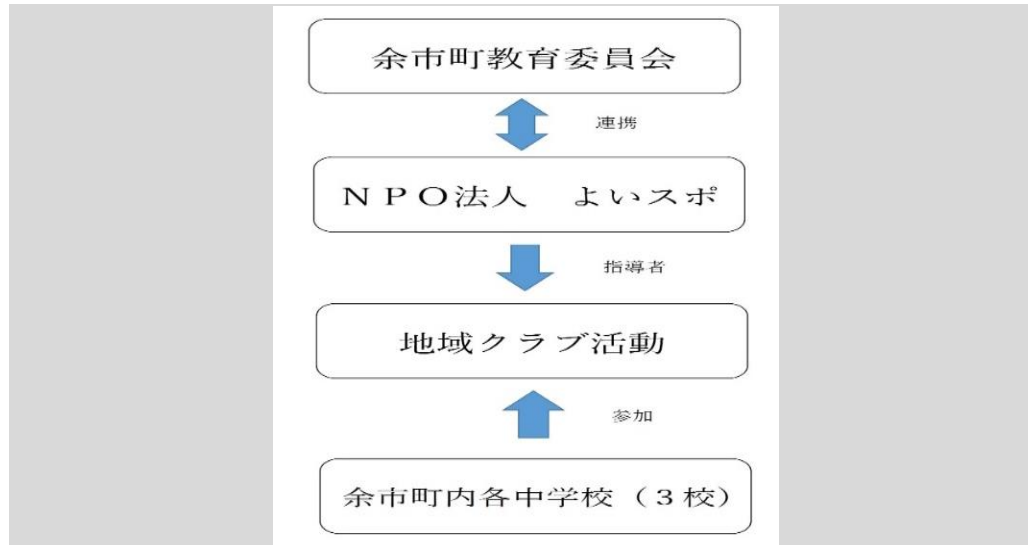
部活動在籍生徒数（人）



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課（部活動の地域移行に係る業務全般）
- ・社会教育課（スポーツ振興全般を担当、体育館、競技場等の運動施設を所管）

◎首長部局

- ・総合政策部政策推進課（庁内の連絡調整、イベントに係る企画提案及び外部からの窓口・渉外業務）
- ・総務部財政課（予算措置、ふるさと納税の活用を検討）

年間の事業スケジュール

令和7年4月	地域部活動体制整備委託業務を締結
令和7年5月	広域連携に向けた検討会
令和7年6月	関係者による連絡会
令和7年7月	広域連携に向けた協議
令和7年10月	委託業務の中間検査
令和7年11月	関係者による連絡会
令和7年12月	受益者負担についての検討
令和8年1月	アンケート実施（小学6年生、部活動参加生徒及び保護者）
令和8年2月	実証事業の完了検査報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	6 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		5 クラブ
全体の指導者数	20 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に (新)を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ブルータス	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	軟式野球	月 16 回	17～19時	中1：6 中2：8 中3：6	4月～3 月	町内小中 学校施設 及び社会 体育施設	6 人	1 人 (内、兼務1 人)	年会費 24,000 円	地域クラブ (中体連を含 む)
FC余市	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	サッカー	月 8 回	18～20時	中1：8 中2：1 中3：0	4月～3 月	町内小中 学校施設 及び社会 教育施設	7人	1 人 (内、兼務0 人)	年会費 12,000円	例) 中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
よいスポクラ ブ	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	女子バスケ 男子バスケ(新) バドミントン(新： 2クラブ)	月 4 回	9～12時 (休日)	10名／ 各クラブ	4月～3 月	町内中学 校施設	各1人	0人	0円	中体連：部 活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 11月30日 部活動地域移行Do-STARTプレイボールイベントを北海道、株式会社ラルズと共催で開催（対象：小学5年生～中学生の野球部員）

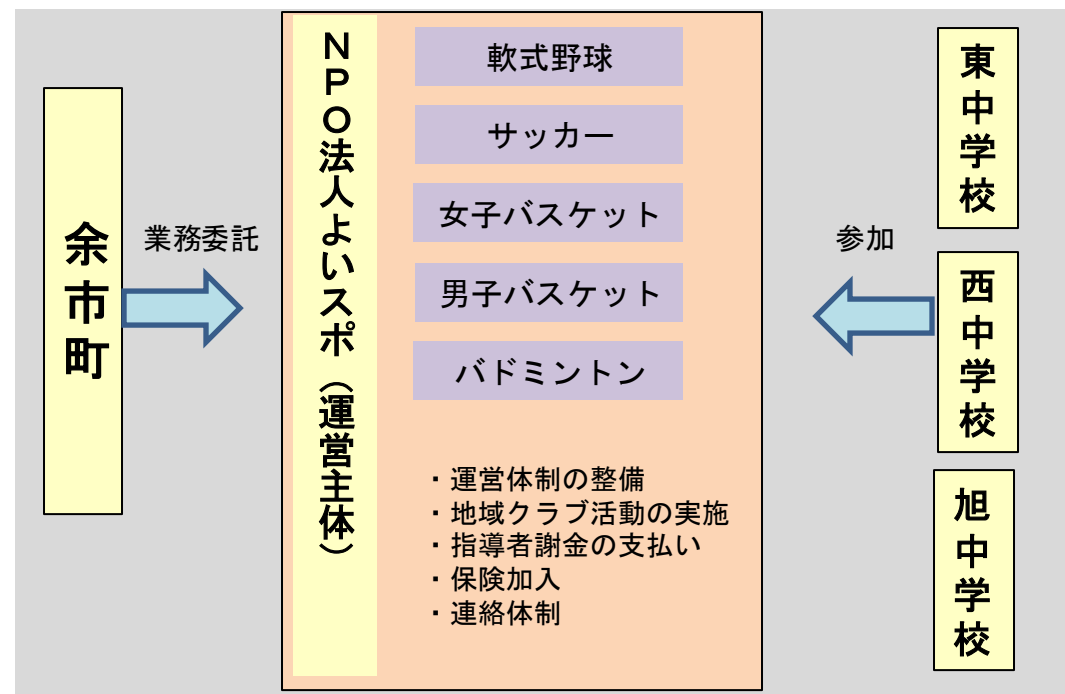
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、バスケットボール、バドミントン
運営団体名	NPO法人 よいスポ
期間と日数	サッカー：月8回程度 野球：月16回程度 バスケットボール：月6回程度 バドミントン：月4回程度
指導者の主な属性	NPO法人 よいスポ
活動場所	町内の社会体育施設、中学校等
主な移動手段	地域クラブによる送迎、自己移動
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 野球：24,000円 バスケットボール、バドミントン：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（コーディネーターを兼務）

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●責任者補佐（副コーディネーターを兼務）

役割：活動において、統括責任者の補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・広域での地域部活動コーディネーター2名を配置し、地域部活動指導員、保護者、市町村、学校との連絡調整、指導助言を行う。

・運営組織の整備や人材の確保、参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務を行う。

取組の成果

コーディネーター2名（正・副）を配置したことにより、関係団体との連絡調整、指導者の配置、活動場所の調整を円滑に行うことができた。定期的に指導助言を行い、活動量と質を確保することができた。

各スポーツ団体、地域のネットワークを生かし新たな人材を確保することができた。事務局員を配置し、参加者・保護者への連絡調整や会費の徴収等、円滑な運営を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

月1回ごとに各クラブを巡回し、活動状況のヒアリングを参加者・指導者に行い、保護者へのアンケートを実施した。指導者・事務局・コーディネーターによる運営会議を2か月に1回定期的に開催し、課題の共有と運営に係る助言・打合せ、大会参加に係る調整など実施した。

今後の課題と対応方針

広域（積丹町、古平町、余市町、仁木町、小樽市）による活動を行っているため、移動手段や会場確保の新たな仕組みづくりが必要である。各市町村、他団体との課題共有と連携強化を図り、活動量と質を確保できるよう運営に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

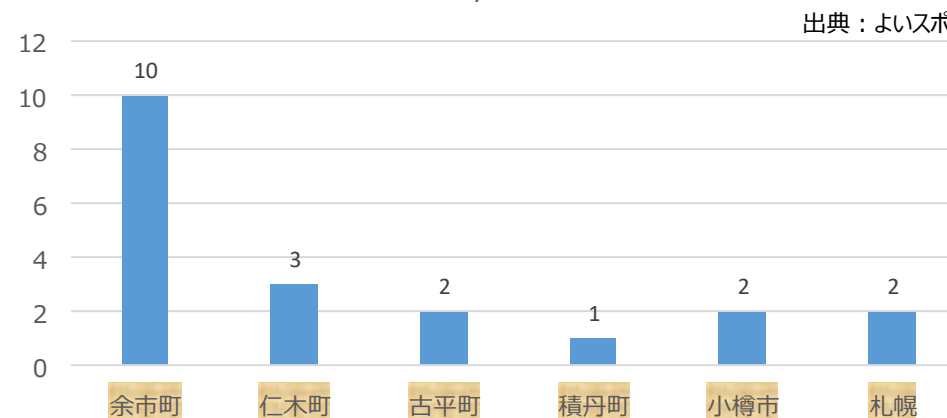
●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	地域部活動指導員	登録者属性	種目	資格有無
・地域の各種競技団体や指導者ネットワークによる地域指導員の確保	20名	男性 19名 女性 1名 計20名	・軟式野球 ・サッカー ・バドミントン ・バスケットボール	・軟式野球 有資格者3名 ・サッカー 有資格者5名 ・バスケットボール 有資格者2名
・指導者の資質向上に向けた各種研修会への参加	地域部活動指導員の年齢構成	地域の指導者によるネットワークからの紹介、元部活動顧問の経験のある教職員、運営母体である総合型スポーツクラブ（よいスポ）の指導者など		
	10代 2名 20代 2名 30代 4名 40代 7名 50代 3名 60代以上 2名			

取組の成果

- ・地域移行へ向けた広報誌を地域へ定期的に配布、SNS等で情報発信し、10代から70代まで計20名の指導者を確保することができた。また、活動スケジュールの調整・会場確保門指導者へ迅速に共有することで、多くの指導者を配置し活発なクラブ活動を行うことができた。
- ・参加者と指導者を含めた研修会への参加、指導者向けのセミナーを受講し、指導者の質を高めることができた。

指導員数/市町村割合



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者コーチング研修・野球教室】

- ・対象 指導員及び選手
- ・目的 専門指導による指導員・選手の技術向上を図る
- ・工夫した点 練習メニューの取り組み方や意識などを指導員・選手ともに見聞きし学ぶ

【指導者養成セミナー】

- ・対象 地域指導員
- ・目的 選手たちの運動能力を伸ばすトレーニング、メンタルヘルスを学ぶ
- ・工夫した点 科学的な根拠に基づいた教養、指導員の意識改革

指導者研修の参加実績

【指導者コーチング研修・野球教室】

- ・開催日：12月22日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：25人

【指導者養成セミナー】

- ・開催日：2月11日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：10名

受講者の声

【指導者コーチング研修】

- (指導員)
- ・野球動作の中で、着目するポイントが膝部であったり、普段の歩行姿勢からであったりと新鮮であった。
- ・個々の体に合ったコーチング法が勉強になった。
- (選手)
- ・初めて体験するメニューが多くて緊張したが、これからも頑張りたい。
- ・普段の歩行姿勢や体の部位を意識する大切さを教わった。

【指導者養成セミナー】

- (指導員)
- ・大会等で選手の運動能力を発揮するために、緊張時のリラックスする手法や科学的な選手へのメンタルアプローチを学べた。

今後の課題と対応方針

定期的な指導者研修を継続して実施し、様々な角度からアプローチできるように選手の成長につながる研修を模索していく。技術向上に偏ることなく、思春期・成長期である選手たちのサポートを指導員ができるよう意識の共有・徹底に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

学校との連携を強化するため、各学校への訪問ヒアリングを定期的に実施し、各課題の共有と学校と地域クラブの連携強化に取り組んだ。

運営母体である総合型スポーツクラブ（よいスポ）が運行するバスと連携し、選手の送迎を試験的に実施した。

取組の成果

部活動地域移行に係るクラブ広報誌を定期的に配布し、生徒への周知、保護者への情報提供を行うことができた。

他団体と連携し、町内3小学校開放事業による会場の調整を円滑に行うことができた。また、中学校の体育館を借用し効率的に会場を確保することができた。

活動拠点への送迎を実施し、保護者の負担を軽減することで、選手たちの積極的な参加につながった。

Bluetus since ~ 2022
 北海道軟式野球連盟
 中学校体育連盟所属

ONE TEAM, ONE DREAM

練習体験・見学随時募集中!!
 練習日：火・水・木・土・日・祝祭日
 場所：自由広場G、町内体育館等
 チーム車両・用具車有り。当番は一切無し
 校区不同! 地域スポーツの新たなカタチ!

部活動地域移行クラブチームとして各種大会へ参戦しています。
 主な戦績：小樽・後志新人大会優勝（2024）、後志中体連大会準優勝（2024）

お問い合わせ先
 NPO法人よいスポ 〒046-0003 北海道余市町黒川町885-1
 電話：0135-48-5887 FAX：0135-48-5888
 HP：yoispa.net Eメール：yoisbi.sports@gmail.com

バス等の運行実績

- ・日数 120 日
- ・利用者数 770 人
- ・運行経路
 余市旭中～余市大川小前～なると屋前～
 ホームセンターナカイ前～黒川小学校～林
 病院前～沢町小学校

バス等の運航経費・収入

- ・人件費
 329,600円（R6.4月～R7.1月）
- ・燃料費
 430,762円（R6.4月～R7.1月）
 ※利用料は徴収していない。

今後の課題と対応方針

生徒の送迎については、広域・複数の市町村からの活動場所への移動のため、限られた範囲での試験運行となっている。乗車地点によっては、選手の乗車時間が大きく変わるため、今後、保護者の協力を得ながら検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保③ / ウ：関係団体・分野との連携強化②

取組事項（イ）

- ・効果的な練習方法、一貫教育について、地域部活動指導員間の情報共有と連携強化
- ・クラブ指導者ネットワークによる地域部活動指導員の発掘と確保

取組の成果（イ）

クラブ指導者間のネットワークを活用して地域部活動指導員を確保し、学校側からの休日部活動の要請に応えることができた。

毎月、コーディネーターと地域部活動指導員のミーティングを開催し指導員間の生徒への指導に統一性を持たせることができた。

事前にコーディネーターが月ごとの練習予定日を作成し、各地域部活動指導員へ指導可能日を打診することで練習日、練習時間、練習場所の確保を円滑に行うことができた。

取組事項（ウ）

- ・学校の部活動指導者（顧問）との協調を図る。
- ・地域の各種競技団体と指導員の確保や練習場所の調整を行う。

取組の成果（ウ）

学校長、部活動顧問教諭、コーディネーター、地域部活動指導員の4者による運営・指導に係る協議を適宜行い、課題の共有や改善に向けて取り組むことができた。

地域のスポーツ団体、少年団等の指導者等と随時打合せを行い、地域部活動の推進への理解を深めていただくことができ、また練習場所についても事前にお互い調整を図ることができた。

今後の課題と対応方針

現状は、学校のクラブ活動のすべてを指導できる体制にはなっておらず、一部競技については兼業兼職の教職員に頼らざるを得ない。更なる指導

員の確保と質の確保（有資格者または研修によるライセンス獲得）を図っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

比較的多人数を要する団体競技（軟式野球、サッカー）について、複数校による合同クラブや周辺自治体の生徒を加えた地域部活動に取り組んだ。

各自治体の役割

余市町（教育委員会）が中心となり、近隣町村の教育委員会を通して各中学校に働きかけ、生徒の運動機会を確保した。

また、実施団体（よいスポ）が車両を用いて生徒の移動を行えるよう、使用した車両に係る経費（リース代、ガソリン代）の一部を余市町が負担した。

移動手段

基本は各自が確保するものであるが、近隣町村は過疎化が進み公共交通機関も十分整備されていない。そのため、移動距離・移動時間が長くなる・移動手段がない生徒については実施団体（よいスポ）がリース車両を用いて生徒の移動をサポートした。

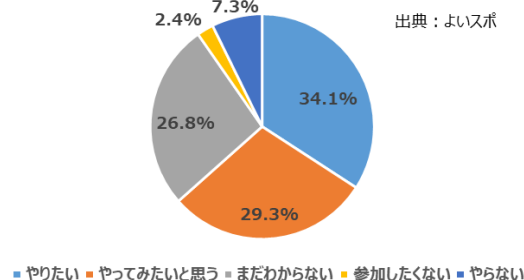
事務局運営の方法

学校関係者への聞き取りや、生徒・保護者への希望調査を行い、受け入れ体制を確立した。車両の配置の関係上、活動当日の出欠についてあらかじめSNS等で学校・生徒・保護者で齟齬が生じないように取り計らった。

取組の成果

余市町近隣の町村においては人口・生徒数ともに余市町より少なく生徒の希望通りの部活動が行えていなかったが、軟式野球やサッカーにおいてそれらの生徒を受け入れ地域部活動ができた。また、来年中学校に入学する生徒・保護者へのアンケートでも、活動場所があればやりたいという希望が多かった。

部活動地域移行に係るアンケート（小学6年生）



今後の課題と対応方針

今後は生徒数の減少により他のクラブも広域的な取り組みが求められる可能性が高く、それに伴った生徒の移動手段の確保が課題となる。自治体間で協議を進め、応分の負担（保険、車両代など）を近隣町村に求めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



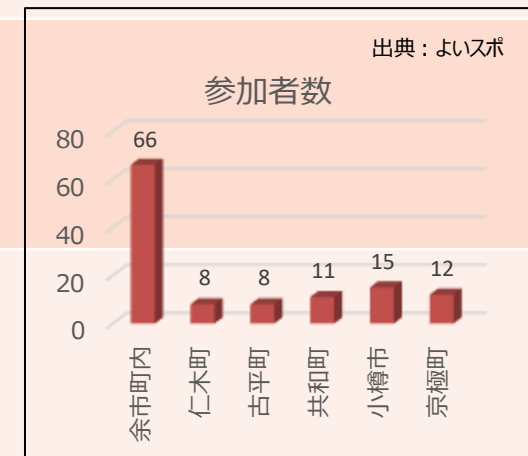
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

北海道【Do-START】
 北海道教育庁、後志教育局、
 余市町、北海道日本ハムファイ
 ターズ、(株)ラルズ、大塚製薬株
 式会社、NPO法人よいスポ共
 催で官民連携による「地域ス
 ポーツ連携・協働再構築推進プ
 ロジェクト」のプレイボールイベント
 を開催した。

活動の詳細			
参加人数	120 人	指導者数	10 人
属性	地域指導員		
具体的な内容	イベントセレモニーを経て、北海道日本ハムファイターズOBの鶴岡氏、ファイターズアカデミーの須永氏、市川氏による少年野球教室を実施した。		
子供の声	● プロの選手を間近で見て緊張した ● 初めて教わるのがたくさんあった ● また、たくさん教えてほしい		
関係者の声	● プロ野球選手を近くで拝見して、刺激的なイベントだと感じた ● 教わる子供たちの目がとても真剣なまなざしであった ● 地域移行が町民に広く周知される貴重なイベントとなった		
運営経費	講師・指導スタッフ交際費 6,000円		



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

地域クラブチームとして近隣町村で広域連携して組織している軟式野球クラブ（ブルータス）23名が、各中学校（余市東、余市旭、余市西、美国中、古平中、仁木中）にて中体連壮行会を経て、初めての中体連大会への参加を果たすことができた。

このことが地元の地方新聞に写真付きで大きく報道されたため、生徒・保護者のみならず、近隣の自治体や学校関係者から問い合わせも多く寄せられ、地域クラブ活動の今後の益々の発展に期待しているところである。

後志地区大会の結果は、1回戦で1対0で見事勝利、2回戦は1対8で力及ばず敗戦となったが、選手全員、特に中学3年生にとっては中学1年生の時から練習に取り組み最初で最後の大会で同じ中学生と競技できること、そして1勝できたことが何より大きな喜びとなった。

観客席で見守っていた保護者の方からも、子どもたちが好きな部活動を続けられて良かったと感謝の言葉をいただき、地域クラブ活動の励みになった。

今後の課題と対応方針

進学する中学校に希望の部活がない場合や、地元の町内にも活動するクラブがない場合であっても、余市町に誰でも加入できる地域クラブがあるということを近隣の町村の生徒にまで周知することができ、大きな成果が得られたと考えている。軟式野球（ブルータス）の効果が他の競技にも波及するように、啓発活動に努めていく。

実際にパンフレット等で様々な機会に周知を行っており、サッカーにおいても近隣の生徒が参加し、日々の練習に取り組み中体連大会を目指している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

クラブ運営に係る収支構造の可視化を実施し、持続的なクラブ運営に向けた財源の確保の検討、公的資金のバランスについて検証を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・業務災害（指導員）保険料 70,000円
- ・車両（選手送迎用）保険料120,000円
- ・事務用品 30,000円

※運営母体の総合型スポーツクラブ「よいスポ」の
ホームページ維持、事務経費、オフィス機器、
通信費は計上していない

■ランニングコストの分析 (R6.4月～R7.1月)

消耗品	492,000円
指導員謝金	2,100,000円
コーディネーター人件費	2,163,000円
車両費リース	1,481,000円
車両燃料費	430,000円
支払手数料	30,000円
研修費	20,000円

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

経費	イニシャル	220,000	財源	受益者負担	360,000
	ランニング	6,716,000		町委託料	5,876,000
	計	6,936,000		クラブ資金	700,000
				計	6,936,000

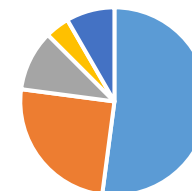
地域部活動の業務に係る経費約700万円のうち受益者負担金とクラブ資金を合わせても100万円であり経費のほとんどが町委託料となっている。公的資金無しで参加生徒数70名（野球20名、サッカー20名、その他30名）で運営すると仮定すると、生徒一人年会費89,000円、月額7,400円となる。

収支バランス

小学6年生の保護者アンケートでは、クラブ活動費（月会費）の負担額は1,000円から3,000円が妥当という意見が7割を超えている。生徒一人月3,000円に抑えるには、クラブ参加生徒数を150名に増やさなければならぬが、それに伴ってランニングコストも上昇し、また指導員の確保、練習場所の確保など新たな問題も生ずる。

したがって、当面は町からの助成が必要と考えている。

保護者に聞いた月会費の妥当額



■ 1,000～2,000円 ■ 2,000～3,000円
■ 3,000～4,000円 ■ 4,000～5,000円
■ 0～1,000円

出典：よいスポ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

余市町は、参加費用負担（受益者負担）については、応分の負担が必要なことは学校関係者や保護者には説明しているが、その額については試算していない。

現状、参加費用を徴収していない学校部活動が多いことから、地域部活動への移行に伴っていきなり負担を求めることは、逆に地域移行への進捗に多少なりとも影響を与えるものと考え、実施団体と協議を重ね、今年度においては、地域移行が進んだ軟式野球については生徒一人当たり年会費24,000円を、地域移行が進みつつあるサッカーについては生徒一人当たり半年分の年会費12,000円を徴収した。

実施団体の運営上の不足分については、余市町の単費予算をあてがいその全額をふるさと納税で賄っている。

今後の課題と対応方針

バスケットボールやバドミントンなどの種目は月数回の休日のみの活動であることから当面参加費用を求めない。

一方で、活動回数が多く、地域移行が進んでいる種目（軟式野球、サッカー）については年会費を徴収することとするが、収支バランスを考えると、現在の参加費用（軟式野球は24,000円、サッカーは12,000円）を大幅に超えることになるため、当面の間、余市町がその一部を助成することとしている。しかしながら、他自治体から参加している生徒も軟式野球クラブ、サッカークラブに居ることから、生徒の足の確保とともに参加費用負担についても自治体間で話し合うこととする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・平日の市内の小中学校開放事業（18時～21時）の活用
- ・休日の小中学校の利用
- ・社会体育施設の利用

取組の成果

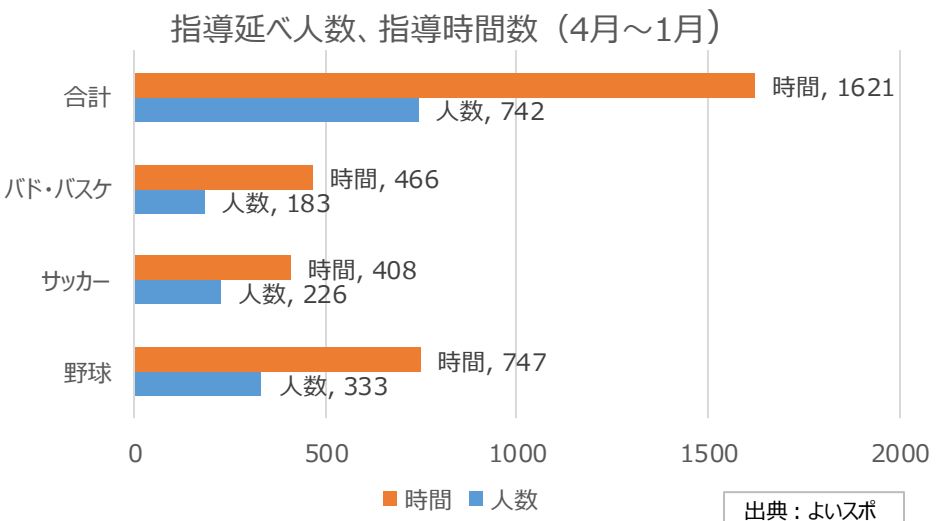
令和6年4月から7年1月までの10か月間で、地域部活動指導員が指導に当たった人数は延べ742人で総時間数は1,621時間となっており、そのほとんどが学校施設を利用している。このうち、平日の地域部活動は延べ432人、909時間で休日は延べ310人、712時間であり、休日の部活動の地域移行だけではなく平日の地域移行も一定程度進んでおり、学校教職員の負担もその分だけ軽減になっている。

野外で活動している軟式野球については、他の競技団体と競合することで活動場所の確保が課題ではあるものの、町が所管している社会体育施設を借り入れる場合は減免措置を講じることができた。

今後の課題と対応方針

学校開放事業は、市内他団体の利用も多く、またグラウンドが使用できない冬季間はその調整にかなり労力を要した。

また、休日の小中学校の利用については、学校によってはセキュリティの関



係から学校関係者（多くは部活動顧問の教員）が立ち会う場合があるため、何らかの対応を学校側と協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

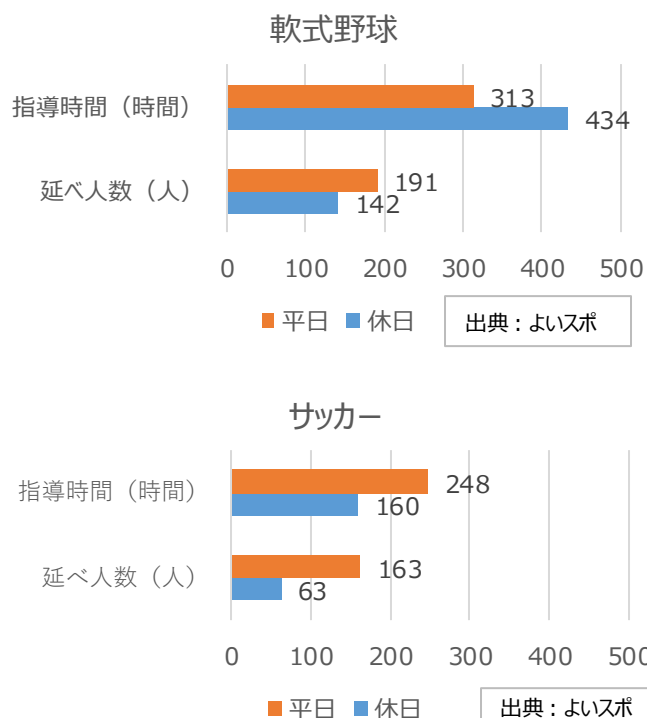
取組事項

一部種目の平日の地域クラブ活動への移行

取組の成果

地域クラブ活動のうち、軟式野球とサッカーについては実施団体（よいスポ）に指導員が多く在籍（野球6名、サッカー7名）しており、休日のみならず平日においても各指導員が都合をつけて生徒の指導が実現できた。

多人数による団体競技の軟式野球やサッカーにおいては近年の少子化の影響で町内の各学校が単独校でチームを組むことが難しく中体連等の大会に参加できない状況が続いていたが、地域クラブ活動の中体連参加条件が緩和されたことから、近隣町村の生徒も加えたクラブチームで大会参加が叶い、生徒は大きな目標に向かって日々の練習に励む姿が見られた。



一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

指導方法・指導方針については、生徒個々の性格等を最も把握している部活動顧問と地域指導員が常時打合せを行っている他、学校長、部活動顧問、コーディネーター、地域部活動指導員の4者で適宜情報共有をしている。

また、指導者間でその指導方法に差異が無いように指導者会議で調整を図っている。

今後の課題と対応方針

練習場所の確保が課題となっている。町内の学校開放事業や社会体育施設等のキャパシティが限られているため、今後、近隣の他自治体の施設の利用も検討していく。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

余市町内に「子どもたちのスポーツ活動及び普及に寄与する」NPO法人『よいスポ』が活動していることもあり、令和5年度から国の実証事業を受託している。この間、学校側の協力（兼業兼職職員、施設利用への配慮等）や、保護者の理解、他団体との調整などもあって下表のとおり事業を拡大することができた。

当初は、実施できる種目で休日の部活動から開始したが、現在は、一部種目では平日の地域移行も進み地域クラブとして中体連の大会参加も叶い大きな成果が得られたこと、また、生徒の希望や教職員の働き方改革にも一定程度寄与できたものと推察している。

		R5年度	R6年度(1月まで)
種目数		3	5
		軟式野球	軟式野球
		サッカー	サッカー
		女子バスケ	女子バスケ
			男子バスケ
			バドミントン
指導員数		11	20
指導時間	平日	435	714
	休日	667	907
	計	1,102	1,621

●成果の評価

- ・令和5年度の3種目に6年度は2種目加え地域指導員も増強した中で事業を実施したことから休日の生徒の参加が増え、充実した活動を行えた。
- ・軟式野球については、地域移行が達成され地域部活動として初の中体連大会に出場できたことで、中学校に希望の部活動がない場合であっても、練習や大会参加ができる良い見本となっている。また、サッカーについても来年夏以降に完全に地域移行する予定である。
- ・一方で他のクラブについては、平日は学校部活動、休日に地域部活動という形はとっているが、指導者の量、質ともに足りずに兼業兼職の教員に頼っている状況であり、早急な指導員の確保が課題である。
- ・生徒の移動のために実施団体が車両を確保したことは生徒の参加意欲の向上に大きく寄与している。

●今後に向けて

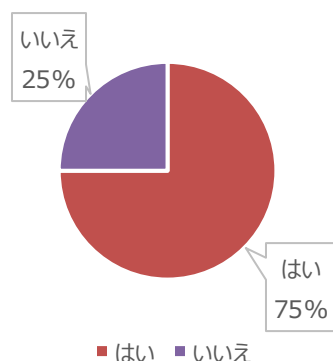
- ・次年度にさらにクラブ数を増やす予定であり、練習場所の確保等についてこれまで以上に他団体への働きかけを行っていく。
- ・兼業兼職の教員は異動があることから早急に指導者の確保（特に有資格者）のため様々な募集方法を模索していく。
- ・何よりも、実施団体が現状は町に依存しているため、受益者負担も含め、持続的なクラブ運営が可能となるような仕組みづくり（キャッシュフロー）を町も関わり合いながら確立していく。

2.実証内容と成果②

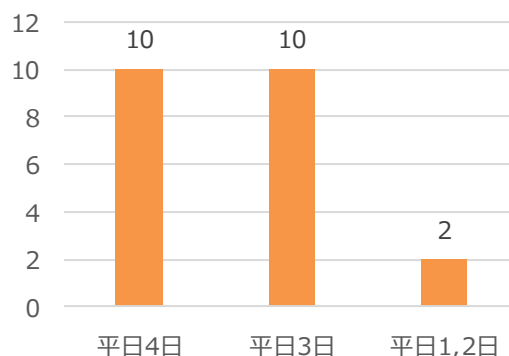
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（出典：よいスポ）

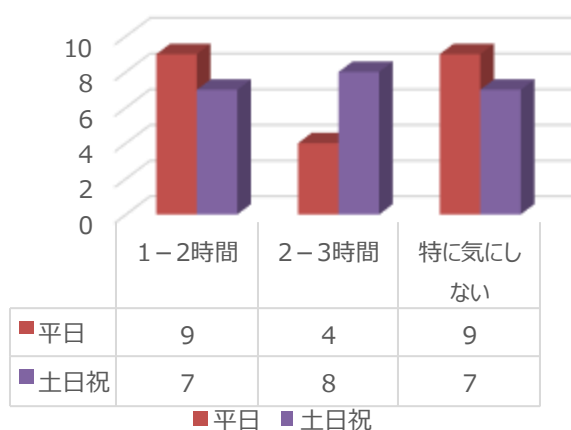
Q1 あなたが所属しているクラブ競技は、小学生の時から続けていますか？



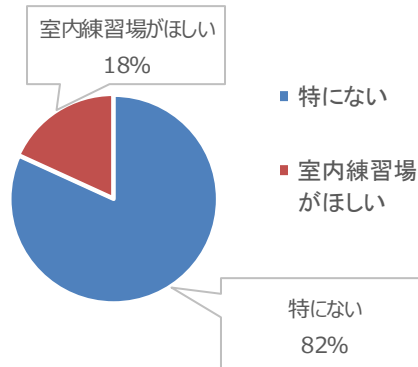
Q2 クラブ活動の頻度はどのくらいが適正だと思いますか？



Q3 クラブ活動の時間はどのくらいが適正だと思いますか？



Q4 現在のクラブ活動について、意見・要望を記入してください。



●参加者の声

中学2年生 軟式野球クラブ Y.Y君

ブルータスがあるおかげで、野球を続けることができました。余市西中には野球部がなかったので野球は続けられないと思っていました。野球を続けられて本当によかったです。中体連大会の北海道大会出場を目指して頑張ります。

中学1年生 FC余市 U-15 K.U君

中学校からサッカーを始めましたが、他校の友達もでき練習に行くのが楽しみになりました。少しでも早くうまくなれるように頑張りたいと思います。

保護者 Sさん

夫婦仕事で帰りが遅いため、土日の試合や平日の送迎をしていただき大変助かります。ありがとうございます。

指導者 地域部活動指導員（教員）

事務局が中心となり選手や保護者ともコミュニケーションをとりながら円滑に運営をしていただいております。選手たちも他校の生徒達とコミュニケーションをとりながら精力的に活動しているように見えます。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

広報チラシ

出典:よいスポ



NPO 法人よいスポ FC 余市 U15

サッカーやりたい！続けよう！やってみよう！ よいスポは応援致します。
新しいサッカーチームのカタチ

現代の地域スポーツ問題に積極的に取り組んでいきます。
地域特有の問題等を考え今後の中学部活動、クラブ活動の
在り方を考えていきます。

サッカーやりたい子供達集まれ！

サッカーが初めての方も大歓迎です！

もちろん女子也大歓迎！



主 催：NPO 法人よいスポ FC 余市 U15
場 所：余市総合体育館 余市陸上 旭中学校 G 黒小体育館
日 時：平日 2～4 回 夕方～夜間 土日大会等参加
対 象：中学生男女
プロを目指す子から、趣味で楽しむ子まで幅広いメンバーを
地域コミュニティとの強い結びつきで応戦します。
勝利だけでなく、スポーツマンシップも重視
サッカー経験は問いません、チームとして協力し合える方
申込方法：メール、クラブ公式ライン、電話
※何時でも体験可能です。先ずはご連絡ください。
※開催場所や曜日が変更になる場合も御座いますので、下記へ確認ください。

お問い合わせ/申込先

NPO 法人よいスポ 〒046-0003 北海道余市郡余市町黒川町 885-1

電話：0135-48-5867 FAX 0135-48-5868

Eメール：horikawa69@kb4.so-net.ne.jp

サッカー事業 担当：堀川 携帯 090-4873-1259



保護者アンケート

出典:よいスポ

Q1 スポーツ庁から勧められている「部活動地域移行」について

- ・よく理解している … 0%
- ・理解している … 44%
- ・聞いたことがある … 56%
- ・まったくわからない … 0%

Q2 クラブ活動費（月会費）はどのくらいが妥当だと思いますか？

- ・1,000円～2,000円 … 55%
- ・2,000円～3,000円 … 36%
- ・3,000円～4,000円 … 9%
- ・4,000円～5,000円 … 0%

Q3 土日祝にクラブ活動拠点（町内・町外）への送迎は可能ですか？

- ・ほぼ可能 … 55%
- ・毎回は無理だが可能 … 36%
- ・送迎は難しい … 9%
- ・その他 … 0%

Q4 地域クラブ活動へ求めることは何ですか？

- ・子供の移動や活動時間帯に関して通学先の学校部活であれば安心・安全であるが、移動が広範囲となり学区外でもあるため安全な配慮をお願いしたい。
- ・子供の人間関係の構築や成長の過程であることを踏まえて、指導者に定期的研修等を受けていただきたい。
- ・サッカーグラウンド、野球場などの環境の整備をしてほしい。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



ブルータス（軟式野球）室内練習



ブルータス（軟式野球）練習後の総括指導



サッカーFC余市 練習前】



サッカーFC余市 ハーフタイム風景



Do-STARTプレイボールイベント参加風景



Do-STARTプレイボールイベント参加風景

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

検討開始

令和4年

学校現場との
調整
受け皿団体や指
導者の選定

令和5年

学校現場との
調整
受け皿団体の
決定

令和6年

地域クラブ活動
の開始

地域クラブ活動
の拡大

令和3年度

- 町内中学校への現状調査
校長会より部活動地域移行の今後に向けて協議を開始。
地域運動部活動推進事業に向け、町内中学校の部活動の実態を把握。

●アンケート調査

現状の部活動種目・部活動数・人数等のアンケート調査を実施。

また、地域移行へ向けた教員への指導希望調査や指導体制についての聞き取り調査を実施し部活動の地域移行に向けた準備を開始する。

令和4年度

●連絡会を設置

地域部活動指導員による指導の取り組み状況の共有及び今後の地域部活動への移行に向けた検討などを行うために、関係者との連絡会を開催。

●実施に当たって生じた課題

・部活動と地域部活動との指導体制

スポーツの種類によっても人材確保に関わる状況は大きく異なる。地域内で指導に携われる人材を探そうとしても特定のスポーツでは適切な人材が見つからないこともある。

・地域部活動に参加した場合の経費

地域移行が進むと、部活動が地域のスポーツクラブや民間企業などに移行されるため、移行先への会費等負担が大きい。

・関係者との連絡調整等

令和5年度

●運動部活動地域移行に向けた実証事業を開始

●NPO法人よりスポへ委託

軟式野球、サッカー、女子バスケットを地域移行に向け実証。

●実施に当たって生じた課題

学校外への移行という、これまでとは異なる形で行われる活動に対して、交通手段の確保が課題。

●実施内容、工夫した点 等

学校開放事業を活用し、18時以降に活動した。

試験的に送迎車両及び運転手をよいスポが整備し、平日の学校間の送迎を実施した。

令和6年度

●運動部活動地域移行に向けた実証事業を継続

●経過

新たに男子バスケット、バドミントンを加え実証事業を拡大実施。

●実施に当たって生じた課題

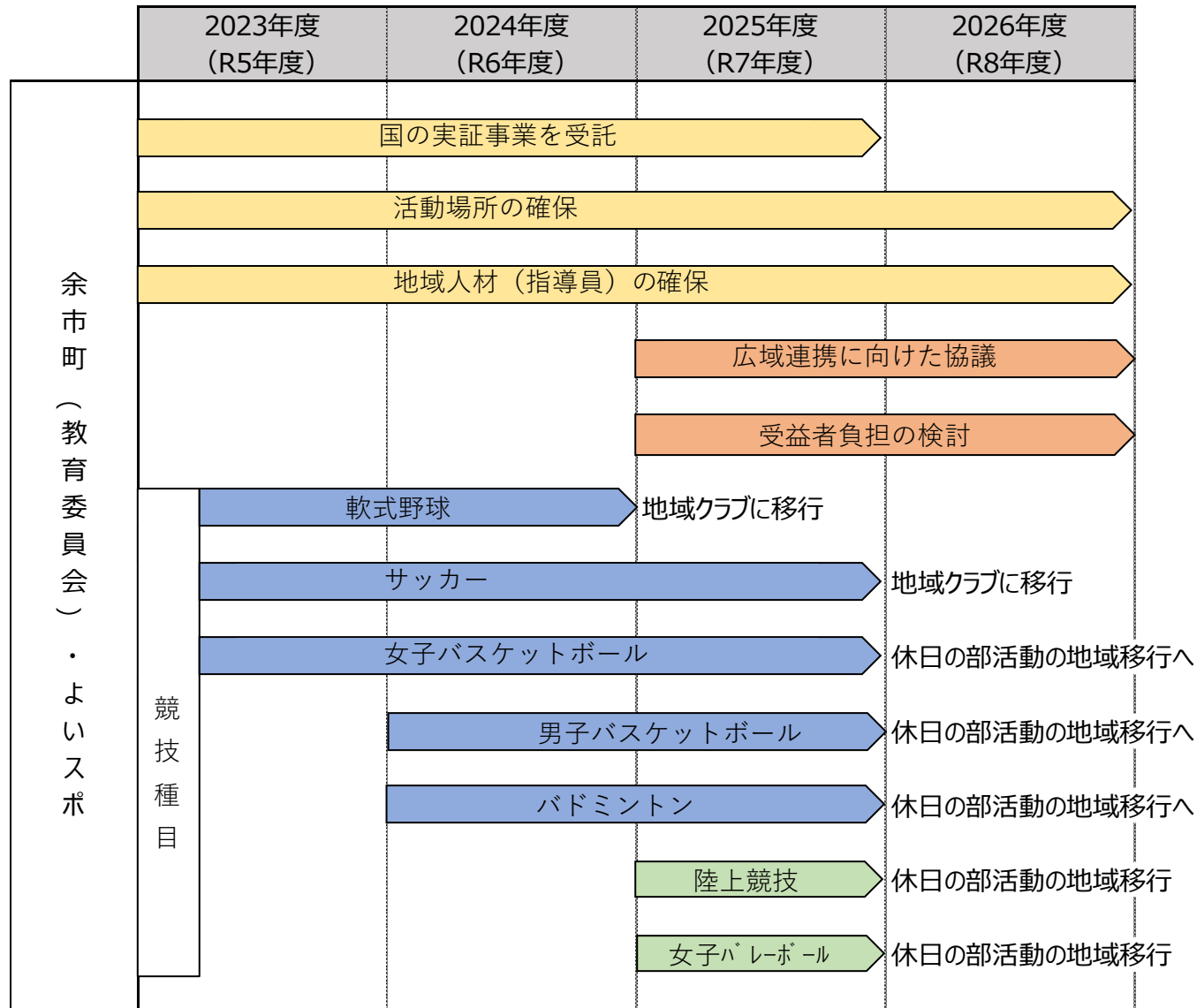
参加生徒数の増加による交通手段の確保、用具類の運搬に時間が割かれる。

●実施内容、工夫した点 等

リース車両の大型化・乗り合いにより移動手段を確保するとともに、競技用具の保管場所を練習場所近傍に得られた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典：余市町

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 由仁町

自治体名：北海道由仁町

担当課名：教育委員会事務局教育課

電話番号：0123-83-3904

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	133.74 km ²
人口	4,527 人 R6.12.31現在
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	90 人
部活動数	3 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

現在、当町の運動部活動は、男子軟式野球部、男子バスケットボール部、女子ソフトボール部の3つが活動している。少子化に伴い、女子ソフトボール部と男子軟式野球部が他の中学校と合同チームによる活動をしている。

【課題】

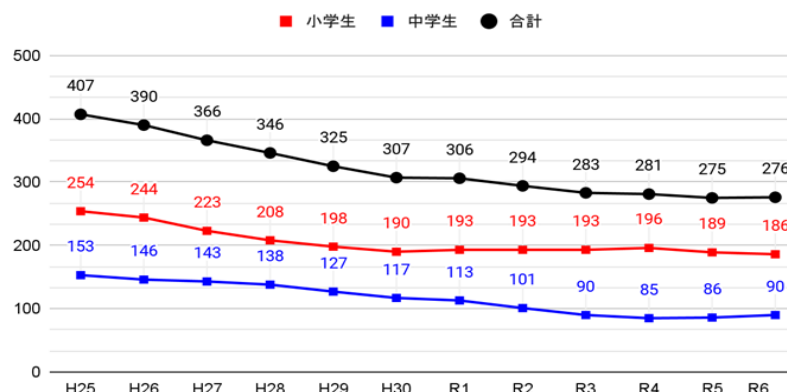
・少子化による昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しい。

・長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。

・部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識する必要がある。

・地域移行にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし・改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとられない「身体づくり」を主体とした活動を第一に進め、同時に教職員の働き方改革の推進を目指す。

由仁町立学校児童生徒数の推移



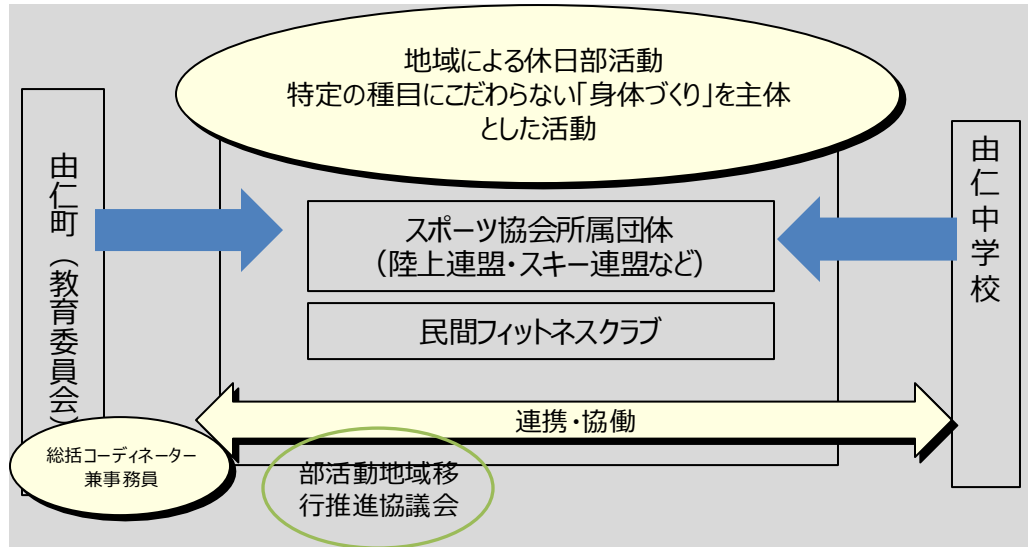
【問題点】

今後減少傾向はますます大きくなることが出生数から予想される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・協議会及び運営団体・実施主体の設置
- ・運営全般（総括コーディネーター雇用による。）

◎首長部局

- ・予算措置
- ・人事行政事務（兼職兼業、職務専念義務免除など）

年間の事業スケジュール

令和6年5月	内部協議（協議会に向けて）
令和6年6月	部活動地域移行推進協議会（第1回目）
令和6年7月	町内スポーツイベントへの参加要請（学校あて）
令和6年8月	マイナー競技（ボッチャ体験会）実施
令和6年11月	こども教育委員会で部活動地域移行に関するワークショップ
令和6年12月	オフシーズントレーニング教室（フィットネス）
令和7年1月	オフシーズントレーニング教室（スキー、フィットネス）
令和7年2月	内部協議（協議会に向けて）
令和7年3月	部活動地域移行推進協議会（第2回目）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	12 人（フィットネス1人、スキー11人）	全体の運営スタッフ数	12 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
オフシーズントレーニング（フィットネス）	由仁町	オフシーズン身体づくりトレーニング（新）	全4回	土曜日 9：30～11：00	募集 40名 参加 3名	令和6年 12月～ 令和7年 1月	由仁町勤労福祉センター	1 人	1 人 （内、兼務1人）	1,000円	該当なし
オフシーズントレーニング（スキー）	由仁町	オフシーズン身体づくりトレーニング	全4回	土曜日 9：30～11：30	募集 40名 参加 0名	令和7年 1月～2月	長沼町民スキー場	11 人	11 人 （内、兼務11人）	1,000円	該当なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 8月4日 ポッチャ体験会（由仁町夏祭り会場で実施）
- 10月14日 ゆっくり由仁ウォーキング
- 10月20日 健康ロードレース（マラソン）
- 9月29日 町民水泳大会
- 11月24日 町民ミニバレー大会

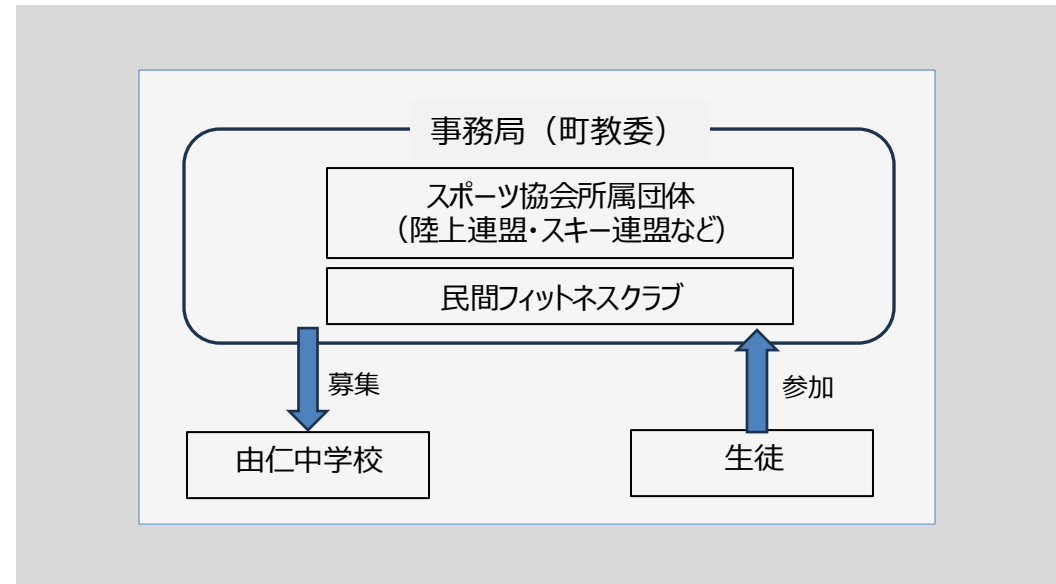
2.実証内容と成果

主な取組例

●由仁町 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・身体づくりトレーニング ・冬季スポーツ（スキー）
運営団体名	由仁町
期間と日数	12月～1月 全8回
指導者の主な属性	フィットネスクラブ所属トレーナー スキー連盟指導員
活動場所	町内公共施設及び長沼スキー場
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円
1人あたりの保険料	各自対応

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（町教委事務局）

役割：中学校との日程調整、企画運営の全般を行う

●主任指導者 2名

役割：参加者へ事業の目的の説明、目指すべき姿の説明を行う

●運営補助者 12名（主任指導者と兼務）

役割：実際にトレーニング指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

町と学校、スポーツ関係団体などを結ぶ総括コーディネーター兼事務員を配置し、連絡調整を行う。

生徒、保護者、地域に長年にわたって根付いている部活動は学校で運営するものという考えから、部活動が教育課程外のものであることへの転換にあたり、総括コーディネーターが核となり基盤づくりを進める。

取組の成果

この取組は2年目を迎え、生徒、保護者、地域に部活動は学校で運営するものから、教育課程外のものであることへの考え方が少しずつではあるが見直されてきた。

部活動地域移行推進協議会では、地域から選出されている委員の中からも「学校で担うものではない。と学校から保護者にはっきり伝えていくべきだ。」との意見が出るなど、長年にわたって根付いている考えが転換されつつある。

これは、総括コーディネーターが核となり、学校と地域を結ぶ役割を担い関係者にアプローチを続けた結果と考えている。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・学校との情報交換
- ・町内イベント等とタイアップした事業展開に向けた企画
- ・生徒のニーズや意見を把握する方法の検討（こども教育委員会の検討）など

今後の課題と対応方針

依然として多数の意見は、部活動は学校で運営するものという考えから脱却できていないため、様々な角度からのアプローチができるよう多様なコーディネーターの発掘も進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

出来ることから少しずつでも地域移行を進めていくため、オフシーズンには所属している部活動の種目にとらわれない身体づくりトレーニングを昨年度に引き続き実施した。指導者として指導資格を所持している町内スポーツ協会所属団体やフィットネスクラブと連携し、種目にとらわれない「身体づくり」を進めた。

一方で既設の部活動種目（野球、ソフトボール、バスケットボール）の指導者人材は、町内の競技団体が存在せず発掘が難しいため、指導等を希望する教師に、教師の立場ではなく地域スポーツクラブの指導者として兼職兼業の許可を得た上で指導等に携わっていくことの検討を進めた。

協議経過

- ・4月 教育委員会から教職員の兼職兼業について協議するよう事務局に提案
- ・6月 部活動地域移行推進協議会において、今年度計画として決議
- ・9月～11月 学校（管理職員、部活動顧問）との協議

取組の成果

休日部活動の移行年度である令和8年度に向けて、令和7年度中の体制構築に向けて、学校関係者と実施スキームの協議をした。

現在、教師の立場で関わっている指導者が地域スポーツクラブのコーチの立場で携わっていくことへについては、現に由仁町にいる顧問は合意している。ただし、兼職兼業で関わっていきながらも、長時間労働の是正が第一であることについて、意見の一致を見た。

ただし、事務局を各種目ごとに持つのか、一括した組織を編成するのかなどの細かな部分までは最終的な結論を出すことができず、保護者説明までは至らなかった。

今後の課題と対応方針

今後詳細を詰めていくことになるが、金銭授受や事故等の責任の所在など課題は山積している。保護者を交えながら、主体は保護者も含め地域にあることを十分に説明し、合意形成を図っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ推進委員やスポーツ協会と連携して、休日に開催されているスポーツイベント等への参加を促し、生徒の体力向上を図っていくと同時に教職員の休日の確保を目指す。

取組の成果

休日に開催されているスポーツイベント等（ウォーキング・マラソン・水泳等）について、教育委員会から学校への参加を要請した。取り組みの趣旨についても、週末の部活動と位置づけ、生徒の体力向上を図っていくとともに、同時に教職員の休日の確保に資するため、積極的に参加を呼び掛けた。さらには少子高齢化が進んだ地域において少年少女が多く参加することで地域イベントの活性化に繋がることが期待していた。

スポーツ推進委員やスポーツ協会では、少年少女の参加を期待したが、小学生ばかりで中学生の参加はなかった。



ゆっくりゆにウォーキング

イベントの開催状況

- ・ゆっくり由仁ウォーキング 10月14日
- ・健康ロードレース（マラソン）10月20日
- ・水泳大会 9月29日
- ・町民ミニバレー大会 11月24日

今後の課題と対応方針

このような取り組みは、教職員の休日確保、生徒の体力向上、地域の活性化が同時に図られるものである。

教職員の働き方改革に直接的につながる取り組みであることから、学校ともさらなる連携を強め、イベントへ参加に向け、生徒への働きかけをしていく。また、生徒には体力向上に向けた身体を動かすことの必要性の啓発も重要と考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○市町を超えた取組

北海道教育庁空知教育局が広域連携のため、空知管内を5地区に分割した協議が始まった。

由仁町が所属している南空知B地区では、複数市町による合同部活動の地域スポーツクラブ活動への移行について情報交換を進めた。

各市町をまたいで選手と指導者を確保することによって、少子化の中でも団体種目の存続を目指し、課題の洗い出しなどを連携を強めた。

部活動地域移行担当国会議

南空知B地区 10月29日、2月18日 2回開催

各自治体の役割

自治体間の連絡調整

取組の成果

南空知B地区として、関係する自治体で2回協議を行ったことは大きな一歩であると感じている。

現に合同部活動を編成していながらも、地域移行は簡単にはいかないと皆わかっていながらも、今後の可能性を信じ、継続的に議論を進めていくこととした。

今後の課題と対応方針

現在、野球部とソフトボール部で合同部活動を編成しているが、今後議論を深めていくことにより、関係する自治体や種目が拡大していく可能性もあり、少子化時代でチームスポーツを維持していく上で有効な方法と考える。令和7年度以降も協議を継続していくこととしている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

学校部活動総合的ガイドラインで求められている「競技志向でなくレクリエーション志向で行う活動」の観点から、出来ることから少しずつでも地域移行を進めていくため、所属している部活動の種目にとらわれない身体づくりトレーニングを昨年度に引き続き実施した。町内のスポーツ協会所属団体やフィットネスクラブと連携し、オフシーズンのトレーニングの取り組みを行い、成績や勝敗あるいは種目にとらわれない「身体づくり」を進めていく。

活動の詳細

参加人数	3 人	指導者数	12 人
属性	フィットネストレーナー 1 人 スキー指導者 11 人		
具体的な内容	バスケットボールの競技特性に応じた室内トレーニング（3 人参加） スキーを取り入れた冬季トレーニング（希望者なし）		
子供の声	● 自分のためになると思いこの事業に参加した。 ● 基礎身体運動練習や応用身体運動練習について、理解ができた。 ● 計画を立てて動くことが大切だと気づいた。 ● ジャンプや走るときの体の使い方が役に立った。		
関係者の声	● プロ選手でもオフシーズンには他種目のトレーニングを取り入れているので良い取り組みと考えている。（中学校） ● 複数のスポーツに取り組むことはマルチスポーツと言われ、トータルパフォーマンス向上につながる。（フィットネスクラブ） ● 雪国にしかできないスノースポーツをトレーニングに取り入れ、異なる動きを学ぶことで筋力や柔軟性向上につながる。（スキー連盟指導者）		
運営経費	全 4 回 24,750円× 4 回 = 99,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した中学生3人を対象としたアンケートの結果、回答者の全員が「自分のためになると思いこの事業に参加し、「基礎身体運動練習や応用身体運動練習について理解ができた。」と回答した。

また、地域のフィットネスクラブやスポーツ協会所属のスキー指導者が、多数存在することがあらためて分かった。今後もオフシーズンのトレーニングに地域の人材を活用することで生徒の身体づくり、教職員の休養日確保が期待できる。



フィットネストレーナーが丁寧に趣旨や目標をミーティングしている。

今後の課題と対応方針

競技種目以外でトレーニングをしていくことの重要性は生徒の理解が進んでおらず、積極的な周知活動が必要と考える。

しかしながら、地域のフィットネスクラブやスポーツ協会所属のスキー指導者が多数存在することにより、オフシーズンの競技種目以外の種目によるトレーニングが可能であり、生徒の身体づくりを図ることができる。また、これ

により教職員の休養日が確保される。

所属している部活動の種目にとらわれない身体づくりトレーニングを地域人材が担うことを今後も進めていく。また、ボッチャやモルックといった誰でも楽しめるマイナースポーツへの取り組みも模索していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

夢づくり子ども教育委員会

テーマ「部活動の地域移行ってなんだろう？～私たちの放課後や休日が変わる！？～」

取組の成果

ゆに教育の日の関連事業として、夢づくり子ども教育委員会を例年取り組んでいる。

今年度のテーマとして、部活動の地域移行について「1日子ども教育委員」に任命された小中学生13名が意見交換を行った。



当日の流れ

- ・開会、委嘱状交付
- ・教育委員会 教育長あいさつ
- ・グループワーク（自己紹介、意見交換、まとめ）
小中学生混合の2つのグループに分かれ、「こんな部活や習い事があっていいな」について考えた。グループワークではChromebookを活用した。
- ・発表
グループワークの内容について、グループメンバー全員が前に出て発表した。
- ・教育委員・教育長の講評
- ・閉会

今後の課題と対応方針

部活動地域以降推進協議会から、アンケートだけではなく子ども達の声を直接聞く機会を設けることの提案を受け、例年実施している夢づくり子ども教育委員会で「部活動地域移行」をテーマに議論を進めた。

今後取り組むべき方向を探る一つとなった。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、部活動の地域移行への取り組みの2年目となり、同時に実証事業への取組も2年目となった。これまで同様、この地域の休日部活動が目指す姿は、特定の種目にこだわらない「身体づくり」を主体とした活動を優先するものとして、計画を進めた。

地域の中では、依然として部活動は学校で運営するものという考えから脱却できていない現状があるものの、部活動地域移行推進協議会の地域選出委員の中からは「学校で担うものではない。と学校から保護者にはっきり伝えていくべきだ。」との意見が出るなど、少しずつではあるが状況が転換されつつある。これは、総括コーディネーターが関係者にアプローチを続けた成果と考えている。

また、実証事業の主体である「成績や勝敗あるいは種目にとらわれない特定の種目にこだわらない身体づくり」では、町内のスポーツ協会所属団体（スキー連盟）やフィットネスクラブと連携し、オフシーズンのトレーニングの取り組みを進めた。

●成果の評価

休日部活動の地域移行は、生徒の体力向上及びスポーツ機会の確保と同時に、教職員の休日確保による働き方改革の推進が目的である。

スポーツ推進委員やスポーツ協会と連携して、休日部活動の一環として町内スポーツイベントへの学生の参加を学校を通じて呼びかけたが、中学生の参加者確保には至らなかった。一方、小学生の参加者は一定数いるため、その参加者が中学生になったときにも継続して参加し続けるような意識の醸成が必要と考えている。

オフシーズンの身体づくりトレーニングでは、冬休みを中心とした教職員の休日確保に向け、フィットネスクラブによる室内トレーニングとスキー連盟によるスキートレーニングを企画したが、参加者が少なく、競技種目以外で体力向上を目指していくことの理解を深められなかった。

●今後に向けて

当町の休日部活動の移行が目指す姿として、これまで同様、「特定の種目にこだわらない「身体づくり」を主体とした活動」を掲げ進めていく。ポッチャ等のマイナー競技も含めて、町内スポーツイベント等とタイアップすることは、生徒の体力向上、教職員の休日が確保に加え、少子高齢化が進んだ地域において地域イベントの活性化に繋がることが大きく期待できるため、このような活動は令和7年度も継続していく。

また、地域スポーツクラブの指導者に、兼職兼業の許可を得た上で指導等に携わっていくことにも同時に検討を進めていく。

アンケート結果・参加者の声

●夢づくり子ども教育委員会の内容

グループワーク意見交換 「こんな部活動や習い事があったらいいな」というものを各自で考えグループ内で意見交換を行った。

1 グループ

○内容（種目など）

- ・バレーボール（2件）
- ・バドミントン
- ・ボクシング
- ・マラソン
- ・自転車競技
- ・テニス
- ・サッカー
- ・吹奏楽
- ・軽音
- ・茶道
- ・やり投げ
- ・ドッジボール
- ・英会話



○練習量について

- ・週4回（5件）
- ・週3回（3件）
- ・週2回・週5回
- ・練習日程を自分で決められる（2件）
- ・土日は練習ある

○指導者について

- ・強い人
- ・毎日交替ではいれるように複数人
- ・優しいけど時には怖い
- ・部員のことを考えてくれる指導者
- ・経験がある人
- ・熱血なコーチ
- ・それぞれの楽器に指導者がほしい（軽音の場合）

○その他

- ・上下関係が強すぎると、そのせいでつらい思いをする人が出てくるかもしれない
- ・試合がたまにある
- ・大会もちよちよく出たりして楽しむ
- ・たくさん大会がある
- ・試合がある野球などの応援
- ・楽しくできる活動
- ・チーム内でのイベントがある
- ・練習だけでなく、部活の中で交流イベントがあったら良い
- ・勝つことだけでなく楽しくできる習い事、部活がいい
- ・練習試合などで毎回レギュラーだけを出すのではなくて部員を全員出してくれたらより楽しめる
- ・体力づくりや運動することを楽しむ

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●夢づくり子ども教育委員会の内容

グループワーク意見交換 「こんな部活動や習い事があったらいいな」というものを各自で考えグループ内で意見交換を行った。

2 グループ

○内容（種目など）

- ・サッカー（3件）
- ・ボールを使う
- ・バドミントン
- ・ドッジボール
- ・書道
- ・吹奏楽部（2件）
- ・テニス



○練習量について

- ・週5回（3件）
- ・週4回（3件）
- ・週3回

○指導者について

- ・優しく時には厳しい人
- ・優しくて分かりやすく教えてくれる人
- ・優しい人
- ・真面目でしっかりと教えてくれて、どんな人にも差別なく厳しく教えてくれる人
- ・面白い人
- ・やる気があって厳しく教えてくれる指導者
- ・熱心で厳しい指導者（経験者）
- ・他の人と比べない人
- ・チーム同士の交流をさせてくれる人
- ・頑張ったことはちゃんと褒めてくれて、ダメなことはちゃんと叱ってくれる切り替えの早い人
- ・自分たちのことを思ってくれる人

○その他

- ・毎週試合がある
- ・試合をしたら必ず全員出られる
- ・土日に練習試合もたくさんある
- ・学校祭などで披露できたらいいと思う
- ・週末に試合がたくさん組まれるチームや部活
- ・声をかけあえるチーム

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【オフシーズンの身体づくりトレーニング①】



【オフシーズンの身体づくりトレーニング②】



【夢づくり子ども教育委員会①】



【夢づくり子ども教育委員会②】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



由仁町の取組 特定の種目にこだわらない「身体づくり」を主体とした活動

●ステークホルダー

学校、町内のスポーツ協会所属団体、町内フィットネスクラブ、町教委（主体：総括コーディネーター）

●経過

令和6年度は部活動の地域移行への取り組みの2年目となったが、この地域において人材面から学校部活動で行われている競技種目の地域移行をすぐに進めていくことは困難であるため、昨年度に引き続き、特定の種目にこだわらない「身体づくり」を主体とした活動を目指した。

生徒の運動に触れあう機会の提供という共通認識のもと、町内のスポーツ指導者として活動を進めているスキー連盟やフィットネスクラブと連携し、オフシーズンのトレーニングの取り組みを進めた。これは、スポーツ庁が学校部活動総合的ガイドラインで示している「季節ごとに異なるスポーツを行う活動」「競技志向でなくレクリエーション志向で行う活動」に基づいた事業展開である。このほか、スポーツ推進委員やスポーツ協会の協力を得ながら、休日部活動の一環として町内スポーツイベント（マラソン、ウォーキングなど）への生徒の参加を学校を通じて呼びかけた。

●実施にあたって生じた課題

町教育委員会から中学校を通じて生徒に参加者の募集を呼び掛けたが、フィットネストレーニングに3名参加となったが、スキーやマラソン大会などのスポーツイベントには中学生の参加はなかった。一方、小学生の参加者は一定数いるため、その参加者が中学生になったときにも継続して参加し続けるような意識の醸成が必要と考えている。

●実施内容、工夫した点等

趣旨が「季節ごとに異なるスポーツを行う活動」「競技志向でなくレクリエーション志向で行う活動」であるため、部活動に所属していない生徒も含めて運動機会の提供に向けて、全ての生徒に対し募集を進めた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

	令和5年度	令和6年度												令和7年度												内容
	実施済	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
地域説明会	●																									・会議を設けず保護者向けのニーズ調査において、調査票の中で地域移行の趣旨について説明した。
協議会の設置	●																									・令和5年11月20日設置
生徒・保護者のニーズ把握	●								●																	・令和4年11月 教職員、小学5・6年生、中学1～3年生対象に実施 ・令和5年6月 保護者、中学1～3年生対象に実施 ・令和6年11月 夢づくり子ども教育委員会を実施
運営団体・実施主体														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・総合型地域スポーツクラブまたは任意団体（保護者等）が担うべきか検討が必要
指導人材の把握・確保	●										●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・オフシーズンの身体づくりトレーニングに関する指導者は把握し、確保できている。 ・既設の部活動種目の指導等を希望する教職員の意向を踏まえながら、教師の立場ではなく地域スポーツクラブの指導者として兼職兼業の許可を得た上で指導等に携わっていくことについて検討をしている。
運営方針などの決定														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・総合型地域スポーツクラブまたは任意団体（保護者等）のどちらかが担うかによって対応が変わる。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 長沼町

自治体名：北海道長沼町

担当課名：社会教育課

電話番号：0123-88-0151

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	168.52 km ²
人口	9,937 人 (令和 6 年 12 月末)
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	251 人 (令和 6 年 5 月 1 日)
部活動数	8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

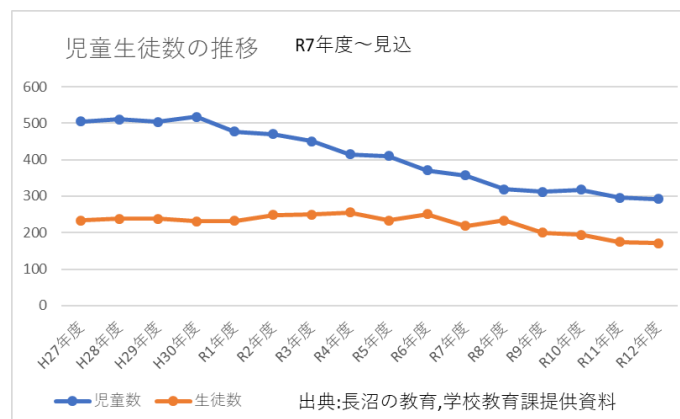
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本町は令和 6 年 12 月末時点で、人口が 9,937 人となり、ピーク時の 1,960 年の約半分まで減少した。総人口における小中学生の割合は約 6 % (令和 6 年) と少子高齢化が進んでいることが顕著である。令和 7 年度の中学校の生徒数の見込み数は令和 6 年の 251 名から 100 名減の 151 名が見込まれている。

令和 6 年度に開設した部活動は、運動系 6 種目 (男子バスケットボール、バドミントン部、女子バレーボール部、卓球部、サッカー部、剣道部) 文化系 2 種目 (吹奏楽部、美術部) である。令和 5 年度より募集停止となった軟式野

球部については、「ながぬま野球クラブ」として、令和 6 年 6 月、地域展開のスポーツクラブとして発足した。(現在部員 1 名)

部活動加入率については、78.5 % (令和 6 年 5 月 10 日現在) と多くの生徒が加入しているところではあるが、サッカー部については 3 年生が引退した令和 6 年 12 月時点では部員数 7 名と、単独でチームが組むことができないで状況で近隣町の栗山町・南幌町の合同部活動での実施である。



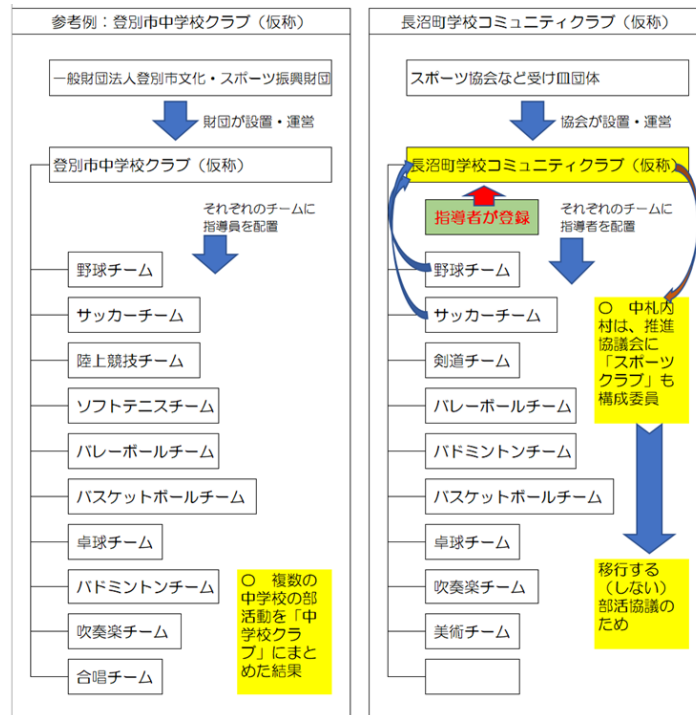
■課題

- ・人口減少
- ・少子高齢化

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



年間の事業スケジュール

令和6年6月	ニーズ調査（アンケート実施） 対象：小4～6,中学生,保護者,教職員,一般町民
令和6年7月	第1回検討協議会
令和6年9月	地域移行先進地視察（安平町）
令和6年9月	第2回検討協議会
令和6年12月	第3回検討協議会
令和7年1月	長沼町まちづくり学習会
令和7年2月	第4回検討協議会

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域移行に係る事務（協議会運営等）の実施。
- ・運営団体等に対する指導助言。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（野球部）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	6 人	全体の運営スタッフ数	12 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ながめま 野球クラブ	独自	軟式野球	週 4 回 火・水・金と 土日どちらか	平日放 課後 休日日 中	1 人(1年)	冬季以外	中学校グ ラウンドほ か	6 人	12 人	1,000円～ （寄付）	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●長沼町まちづくり学習会 （2025年 1 月 31日）

広く町民に、これからの学校部活動の方向性、つまり、人口減少社会における部活動地域展開、多様な人が一緒にスポーツや文化活動を楽しみ、3年後開校予定の長沼町立義務教育学校が公民館的要素を兼ね備え、まちづくりの中心となるようなコンセプトで作られること、学校だけにとどまらない、スポーツ文化活動ヘシフトしていくことなどを 先進的な取り組みをしている安平町教育長と長沼町部活動地域移行アドバイザー兼文科省CSマイスターのトークイベントを通して、理解してもらう会を実施した。

2.実証内容と成果

主な取組例

●ながめま野球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	ながめま野球クラブ
期間と日数	野球：6月24日～10月31日 週4回程度
指導者の主な属性	地域住民
活動場所	長沼中学校グラウンドほか
主な移動手段	各自の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	参加者からの会費はなく、クラブ運営に対する寄付による
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 会長
役割：本クラブを代表し、会務を統括する。
- 指導者 6名
役割：本クラブの活動を指導する。
- 事務局 1名
役割：本会の事務を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・指導助言等を行う。

取組の成果

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

- ・先進地域への視察コーディネート
- ・スポーツ庁等の方針や今後の方向性の周知
- ・中学校管理職に対するヒヤリング 現状分析
- ・町民、小中学生、保護者、小中学校教員へのアンケート調査及び分析
- ・指導者・協力者等の掘り起こし
- ・町民への周知

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 児童生徒・教職員・保護者・町民に対するニーズ調査・分析・広報
- 検討協議会の企画運営 先進地視察のコーディネート
- 教育委員会との連絡調整
- 部活動地域移行連絡協議会 ○民間、高等学校等との連携

今後の課題と対応方針

- 部活動地域展開を視野に、長沼町地域総合スポーツクラブの設立にむけた町民への周知 と協力団体・個人の掘り起こし
- 活動場所や謝金についての検討 規約作成
- 近隣町村との協力体制について検討

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

北海道教育庁学校教育局部活動改革推進課事業の、「ほっかいどう部活動地域クラブ活動サポーターバンク」の紹介を少年団等指導者に行った。

人数

3名

年齢構成

10代	0名
20代	2名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	1名

登録者属性

職業

- ・無職1名
- ・会社員1名
- ・公務員1名

3名とも男性。

種目

指導可能種目

- ・演劇
- ・写真
- ・バスケットボール
- ・卓球

資格有無

- ・JBA公認コーチライセンス取得者
- ・教員免許取得者

取組の成果

・少年団指導者等に紹介を行い登録を依頼したが、大きな成果が得られなかった。どのような仕組みのもので、こういったものに今後活用されるものなのか不明なところもあり、全体としての周知不足が原因である。結果として、現在までに3名のサポーターバンクの登録があったが、町としてサポーターバンクの登録者に接触を行っていないので、今後設立が予定されている、長沼町総合型文化・スポーツクラブでの指導者として参加を促す。また、スポーツ協会・少年団等にも引き続き登録を依頼するとともに、HPでの周知を今後行う。

・指導にあたる人が少数であると、その人だけの負担が多くなることから、より多くの指導者（30代以上）の確保に努め、地域ぐるみ・まちぐるみで取り組んでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

1 ニーズ調査

令和6年6月7日から21日の期間長沼町立中学校生徒、長沼町立小学校児童5・6年 小中学校教職員及び小中学生をもつ保護者、一般町民に対してアンケートを行った。これにより、現在の児童生徒のライフスタイルや志向などがわかってきた。

- ①小学生 回答した小学生の73.6%が放課後活動を行っている
中学生になったら部活動に入りたい児童は約半数
- ②中学生 部活に求めるものが多様化している
入りたい部活がない 習い事や塾などで忙しいなどの理由で部活動に入りたくないという回答も多い
- ③保護者・教職員 楽しく取り組めるものを、土日はやめてほしい
地域展開にしたほうがよい

今後の課題と対応方針

本町も当初は、土日だけ地域移行を行い、その後平日にも拡大という予定であったが、ニーズ調査や 北海道教育大学岩見沢校山本理人教授の講義を聞くなど、社会の流れを考え、地域総合型スポーツ文化クラブ設立を目指す方向にシフトしている。これは、既存のスポーツ団体（大人のスポーツ団体）も高齢化、メンバーの減少などにより、児童生徒の活動に協力を依頼さ

長沼の子どもたちが求める部活動

～こんな部活があったらいいな～

TEC系

E-sports (3)
PC (2)
プログラミング
音ゲー

学術・カルチャー系

ダンス (4) 軽音楽 (3) 写真 (3)
料理・手芸 (6)
英会話 (2) 百人一首 (3) 科学 (2)
勉強 (2)
世界史 合唱 陶芸 茶道 書道
フラワーアレンジ お笑い

スポーツ系

女子卓球 野球 男子バレーボール
ドッジボール
ハンドボール フェンシング
弓道 柔道 水泳
スキー・スノーボード
女子バスケットボール

部活入りたくない (8)
休みが多い部がいい

考察
調査対象は長沼小5・6年児童と
長沼中全学年生徒
回収率は %
テクノロジー系へ志向が増えてき
ている。また、個人で追究できる
ものへの志向も強い傾向もある。
つまり、昭和・平成の昔と比べる
と子どもたちの志向は多様化して
いる。

アンケート調査結果（一部）

れても担えないという物理的な事情も明らかになってきた。さらに、長沼町では令和9年に町内の小中学校各1校が義務教育学校として開校するに伴い、公民館的要素を持つ校舎デザインを考え、地域住民と児童生徒がともに活動する機会をふやし、学校を核とした地域づくりにつなげたいという長期的なビジョンもあるため、地域総合スポーツ文化クラブ設立というゴール設定を行うこととした。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域スポーツクラブとしての野球部の設立、児童生徒・教職員保護者地域住民対象のアンケートの実施などにより、少しずつではあるが、現在の部活動の形では継続が難しいこと、それは教員の働き方改革のためではなく、児童生徒の充実した放課後の活動とさらにはまちづくりにつながる営みだということが地域住民に理解してもらえるようになってきた。本町においても少子高齢化は深刻な課題であるが、コンパクトな町であっても子どもから高齢者まで豊かに学び成長できるまちづくりの可能性について希望をもってもらえてきた。

また、今年度発足した地域の野球クラブについては、部員数が少ないものの、地域の大人の方々の協力体制ができていることがわかった。来年度以降、地域クラブ化する種目が出てきたときにモデルとなる団体があることは有意義である。

来年度も児童生徒のニーズ調査と分析を継続し、また近隣の自治体とのよりよい協力体制をさぐりながら、やりたい活動ができる、楽しく有意義な放課後の時間の使い方として、新しい長沼町の活動の実現を求めて生きたい。

●成果の評価

意見を聞く、当事者意識をもってもらう…ニーズ把握と地域の人の力を借りながら

アンケート結果から,児童生徒のライフスタイルや志向の変化が読み取れた。従前からあるチームスポーツの部活動に対する志向だけではなく、ひとりで、または少人数で、楽しく活動できる種目、プログラミング等テクノロジー系の思考や、伝統的な文化活動、ダンスややりたいことを季節に応じて取り組みたい等さまざまな希望を知ることができた。

まずは、大人の思い込みを外して、生涯にわたってスポーツや文化活動を愛好する素地を育む活動、多様な年代の人がともに活動できる機会などを作って取り組んでもらいながら方向性を定めていきたい。部活動は中高生のもの、という思い込みを外して、地域の多様なひととともに取り組む放課後活動にマインドを変えていく必要がある。

●今後に向けて

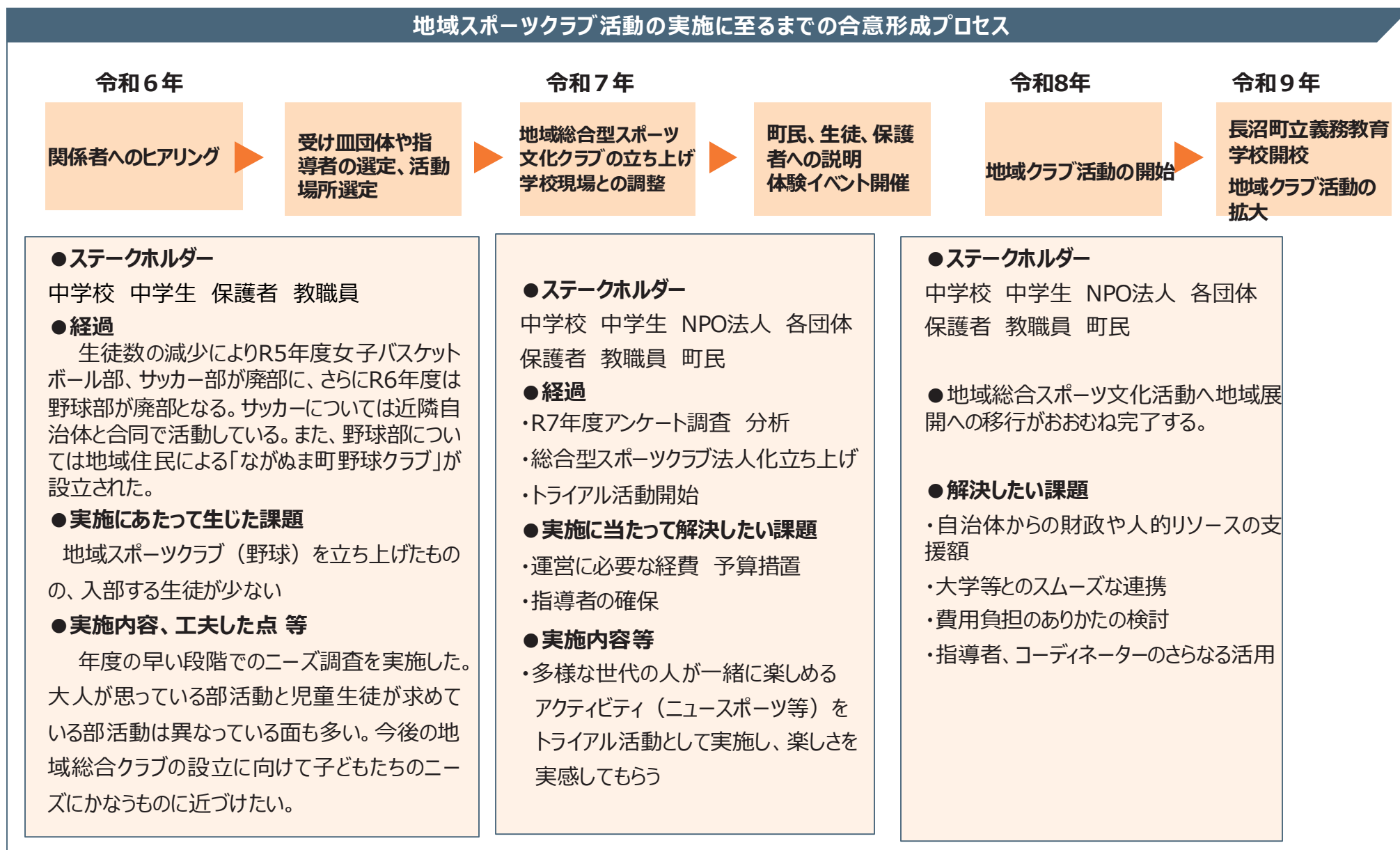
地域とともにある学校の地域ぐるみの放課後活動をめざして

令和9年開校予定の長沼町立義務教育学校では、校舎に公民館的な要素を持たせ、地域の人の学びと児童生徒の学びが交差する場、年齢も属性も多様な人がともに学び、成長する場というコンセプトで設計され、学校を核とした地域づくりをめざしている。

そのためには、既存の部活動の在り方にこだわるのではなく、子どもたちのニーズを聞きながら、最適な活動の機会を作っていくことをめざしていくことを長期的なゴールに設定した。多くの町民に理解してもらうために広報活動を進めつつ、法人設立と活動を支援していく。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ				
	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026	R9年度 2027
国・道	※説明会・研修会等への参加 助成事業等			
	近隣自治体との連携 合同開催 対外行事 施設・移動等 説明会・研修会・近隣市町村教委との連携会議 等			
長沼町	○ニーズ調査 ○検討協議会→委員を増やす ○先進地視察 ○次年度以降の方針決定 野球クラブ発足	○地域クラブ発足準備 NPO法人化支援 スタッフ ○ニーズ調査（小中高校）教員住民 ○スポーツ団体等への説明会 ○指導者登録開始 ○予算関係精査（謝金 経費等） ○地域説明会 ○予算等	○地域総合型クラブ（種目未定）発足 ○組織づくり ○予算 ○助成金申請等 ○説明会実施 ○指導者利用者規約策定 ○スタッフ研修会 学校部活動を地域クラブへ移行支援	○地域総合型クラブ実施（義務教育学校会場使用開始） ○クラブ・学校・教委の定期MTG ○助成金 ファンドレイジング等支援策
学校	野球部廃部 部活動発足 加入者名簿作成 活動日指導者調整等	○バレー 剣道 地域クラブ移行検討 ○部活指導員委嘱 ○ニーズ調査協力 ○体験会 ○PTA 学校運営協議会等での説明会 ○保護者説明会 ○保護者生徒向け説明会 ○種類 指導者バンク	○施設使用について検討（規約・セキュリティ・設備等） ○町教委 クラブ等との打ち合わせ ○保護者説明会 ○学校運営協議会での熟議	義務教育学校開校 ○施設使用開始 ○クラブ・学校・教委の定期MTG

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道鷹栖町

自治体名：北海道鷹栖町

担当課名：教育課

電話番号：0166-87-2028

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	139.4 km ²
人口	6,456 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	165 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

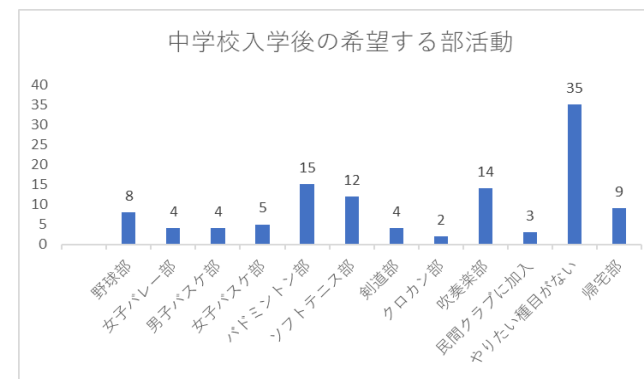
鷹栖町立鷹栖中学校の部活動加入率は80%と高く、加入していない生徒は近隣市町村のクラブチームに参加するなど中学生のスポーツ参加率は高い。顧問は、競技経験のある種目を担当しており、競技経験のない顧問がいる部活動には部活動指導員を配置している（3部活動3名）。

本町においては、令和5年度から行政、たかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校、少年団が連携し、小学生から中学生までの一体的なスポーツ環境の整備に向けて実証事業を行っている。

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
1年生	59	51	52	51	56	45	46
2年生	51	59	51	52	51	56	45
3年生	60	51	59	51	52	51	56
合計	170	161	162	154	159	152	147
部活動加入率	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
部員数	136	129	130	123	127	122	118
部活動数	9	9	9	9	9	9	9
1部活あたり	15	14	14	14	14	14	13
(中体連終了後)	10	10	9	9	10	9	8

部活動の課題としては、種目を専門指導できる顧問がいない種目や少子化により大会出場人数が確保できない種目があること。また、立地として都市部（旭川市）から近距離であるため、少年団活動に近隣市町村からの児童の参加が増加しており、指導者や保護者からは中学校に進学後も一緒に活動を続けたいというニーズが高い。

6年度に設立したNexusBC（バドミントン）は町内外から参加者や指導者が集まっており、中体連大会にも出場するなど活発な活動が行われている。

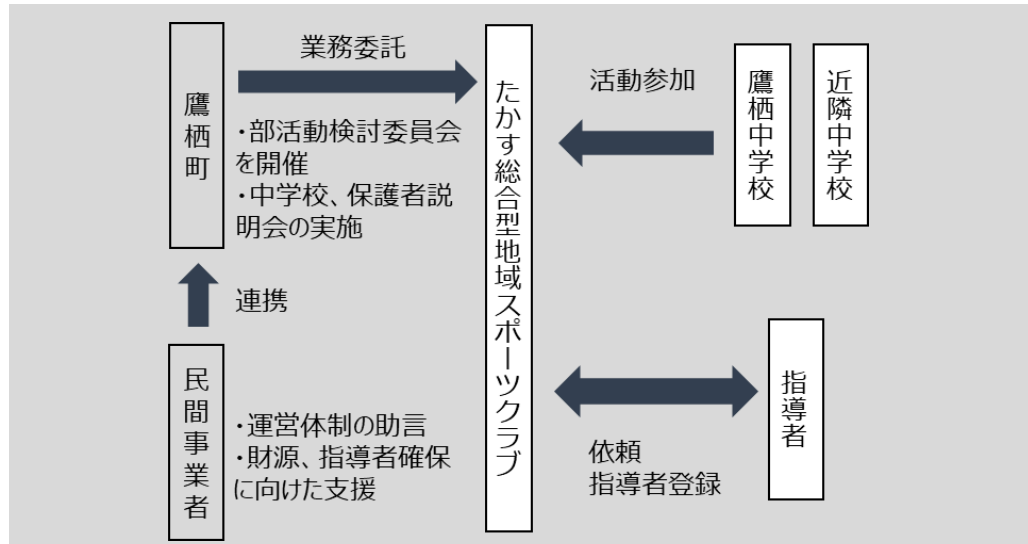


令和5年度鷹栖町小学生スポーツ・文化芸術活動に関するアンケート調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動地域移行推進委託事業に関する業務
- ・たかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校との調整・連携
- ・部活動指導員の配置

◎首長部局

- ・送迎支援の検討

年間の事業スケジュール

令和6年4月	NexusBC活動開始
令和6年5月	ゆるスポ活動開始
令和6年5月	バスケ、クロカン移行打合せ
令和6年10月	バレークラブ、からだづくりプログラム活動開始
令和6年11月	クロカンクラブ活動開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	1 1 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
NexusBC	たかす総合型地域スポーツクラブ	バドミントン （新）	週 4 回	18:00～20:00	3 年生 1 名 2 年生 3 名 1 年生 9 名	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	鷹栖中学校	4 人	2 人 （内、兼務 1 人）	月会費 1700 円／ 年会費 0 円	中体連・その他：地域クラブ
バレークラブ	同上	バレーボール	月 2 回	13：00～15：00	2 年生 4 名 1 年生 6 名 小 6 年生 2 名	令和 6 年 10 月～令和 7 年 2 月	鷹栖中学校	2 人	1 人 （内、兼務 1 人）	年会費 500 円	中体連：部活動
クロカンクラブ	同上	クロスカントリースキー	週 5 回	17:00～19:00	3 年生 2 名 1 年生 2 名	令和 6 年 11 月～令和 7 年 3 月	鷹栖町総合スポーツ公園	1 人	1 人 （内、兼務 1 人）	年会費 12,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
ゆるスポ	同上	多種目	週 1 回	16:00～18:00	1 年生 3 名	令和 6 年 5 月～令和 7 年 3 月	鷹栖町総合体育館	1 人	0 人	1 回 100 円	
カラダづくり	同上	ストレッチ、筋トレ	年 5 回	9：00～12：00	1 年生 36 名 2 年生 29 名	令和 6 年 11 月～令和 7 年 1 月	鷹栖中学校	3 人	0 人	無料	

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 2 月 15 日（土）、NexusBC 及び鷹栖町バドミントン少年団を対象に、バドミントン女子ダブルス元世界ランク 1 位の永原和可那選手に来町いただき、バドミントン講習会を開催した。

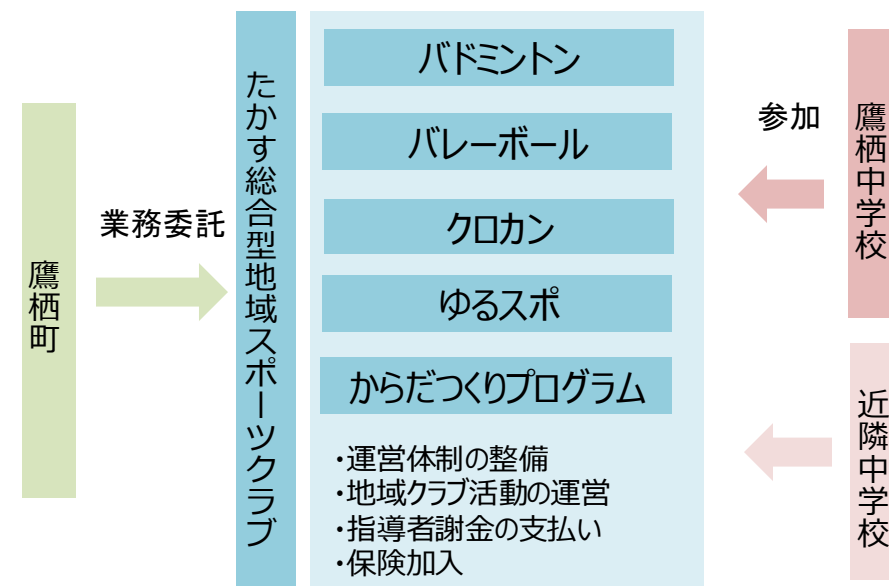
2.実証内容と成果

主な取組例

●たかす総合型地域スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、バレーボール、クロスカントリースキー、ゆるスポーツクラブ、からだづくりプログラム
運営団体名	たかす総合型地域スポーツクラブ
期間と日数	バドミントン：4月1日～3月31日 週4回 バレーボール：10月1日～2月15日 全10回 クロスカントリースキー：11月1日～3月31日 週5回 ゆるスポ：5月1日～3月31日 週1回 からだづくりプログラム：10月1日～2月21日 全4回
指導者の主な属性	少年団指導者、地域在住の有資格者
活動場所	鷹栖中学校、鷹栖町総合スポーツ公園、鷹栖町総合体育館
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	バドミントン：20,400円 バレーボール：500円 クロスカントリースキー：12,000円 ゆるスポ：6,000円 からだづくりプログラム：無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●運営補助者 2名

役割：地域クラブ活動における事務作業や会計等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○たかす総合型地域スポーツクラブが運営主体となり、指導者の確保、会場の調整、参加者の集約、当日の運営等について実証事業を行った。

○中学校との調整は教頭及び部活動担当教員を窓口に、進捗状況の報告や体育館の利用調整などを行った。

○株式会社BUKARU（札幌市）と鷹栖町が、同社が有するスポーツネットワークを活用した財源・指導者の確保や活動の広報について連携協定を締結した。

取組の成果

○たかす総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーをコーディネーターとし、鷹栖町教育委員会と連携し、関係者との連絡調整や各地域クラブの運営体制の整備を行った。

クラブマネージャーには地域クラブとして大会に出場するための選手登録や大会申込手続き、日々の練習計画の調整、作成、共有、学校との調整など幅広い業務が求められた。

○株式会社BUKARUとの連携により、たかす総合型地域スポーツクラブの運営に対する助言・支援や、様々な場面で本町の地域移行の取り組みをPRいただいた。広報効果によるバドミントンクラブの次年度入団希望者の増加やそれに伴うバドミントン少年団の団員増加に繋がった。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・中学校教頭、部活動担当教員、部活動顧問との調整
- ・部活動顧問からの事務引継ぎ（予算、大会申込など）
- ・保護者会への説明
- ・地域クラブ実施日の体育館の鍵開け、受付など

今後の課題と対応方針

○令和6年度は5つの地域クラブ運営による事務や休日対応、保護者対応などが多岐にわたり、現状のたかす総合型地域スポーツクラブの人員では不十分な点があった。次年度は地域クラブ運営専属の正職員を1名雇用し、対応する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保証・量の確保 / キ：学校施設の活用等

取組事項（イ）

○元教員（バドミントン）、スポーツ少年団指導者（バドミントン）、種目経験者（クロカン）、地域おこし協力隊（バドミントン）、元アスリート（バレーボール）、理学療法士（カラダづくり）など地域人材の協力をもらい実施できた。

○鷹栖町独自の人材バンクは設置していない。

取組の成果（イ）

○バドミントンは、現在の指導者の紹介により、新たに1名を鷹栖町地域おこし協力隊として採用し、たかす総合型地域スポーツクラブの事務員兼バドミントンクラブの指導者として活動している。

○クロスカントリースキーは、クロカン指導経験のある町民に協力を依頼し、平日・休日ともに指導をいただいている。指導に来られない日は少年団と合同練習を行うことで、子どもたちが安心して活動できる環境に繋がっている。

今後の課題と対応方針

○バスケットボールの指導者を確保でき、7年度からたかす総合型地域スポーツクラブのスタッフ兼指導者として採用が決定している。

○6年度はバスケットボールでは実証事業は実施できなかったが、採用す

取組事項（キ）

○バドミントン、バレーボール、からだづくりプログラムの活動を鷹栖中学校を拠点に開催した。

取組の成果（キ）

○運営主体であるたかす総合型地域スポーツクラブが学校開放の申請を行い、部活動終了後の時間帯を活用した。

○次年度からは部活動の体育館使用ローテーションの中に地域クラブも入れていただくことができたため、活動場所の確保や、子どもたちの負担軽減に繋がることが期待される。

る指導者とともに少年団と地域クラブの連携を進めることができ、指導者間の情報共有、練習や大会時における相互の手伝いなど連携が図られ、指導者の負担軽減に繋がった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化 / オ：内容の充実

取組事項（ウ）

○学校と連携し、新入生説明会、部活動後援会等において、本町の取組の進捗状況を説明し、保護者からの理解を促した。

○指導のための学生派遣について、旭川市立大学と包括連携協定を締結した。

○町所有の社会教育車を活用した送迎支援を、首長部局と連携して体制の検討を行った。

取組の成果（ウ）

○学校に保護者が集まる機会を活用し、中学校とともに保護者への進捗状況の説明を複数回実施することができ、取組みの理解に繋がった。

○送迎支援については、町所有の社会教育車を活用したサービスを令和7年度4月からの運行に向けて協議を行った。少年団を含めた支援とし、子どもたちのスポーツ活動支援を目指す。

今後の課題と対応方針

○送迎支援について、乗車場所や運航時間について、保護者や少年団と協議を実施している。子どもたちが安全安心に活動ができ、保護者負担を軽減することにより、スポーツ実施率の向上を目指す。

取組事項（オ）

○中学生期の体づくりやけが予防を目的に運動部活動に加入する1、2年生80名を対象にからだづくりプログラム開催した。町内在住の理学療法士3名に協力を依頼し、身体状態に関するチェックテストなどを実施し、身体機能の改善や身体を思い通りに動かせるようになることが、パフォーマンス向上に繋がることを教わった。

取組の成果（オ）

○指導に携わっていただいた理学療法士からは、地域子どもたちの身体を見る機会や指導できる機会をもらい今後も続けていきたいという声があった。

○参加した子どもたちからは、「怪我のリスクや自分の身体の弱点を知ることができてよかった」、「教わったトレーニングを部活動や自宅で取り組みたい」という声があった。

○休日に開催し、部活動は休養日としたことから、顧問の負担軽減にも寄与した。

○経費としては、保険料及び講師謝金の支出を行った。

○たかす総合型地域スポーツクラブにてコンディショニングトレーナーを養成し、理学療法士とともに定期的に子どもたちの身体のサポートを行う。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本実証事業においては、鷹栖町教育委員会と運営主体であるたかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校が連携した形で地域移行に取り組むことができた。

また、望ましい将来像として、たかす総合型地域スポーツクラブに地域クラブと少年団を統合し、小学生から中学生までのスポーツ環境を整備する方針が確立され、保護者や指導者へ共有を図った。

実証事業の成果としては、今年度バドミントン及びクロスカントリースキーにおいて、地域クラブ活動を通年で実証する試みであった。運営主体側の事務の洗い出しや指導者・保護者との連携方法を確立したほか、どちらの種目とも地域クラブとして大会に出場したことから、指導者の旅費や大会参加費など将来的にどの程度の運営費用が発生するか掴むことができた。

バスケットボールの移行を試みた結果、女子バスケットで2名、男子バスケットで1名の指導者を新たに確保でき、令和7年度以降のミニバス少年団と地域クラブの統合にも繋がっている。

●成果の評価

令和6年度の実証事業においては、指導者発掘に時間を要したことからバスケットボールの実証事業を実施できなかった。その他種目については計画どおり地域クラブ活動を実施することができた。

バドミントン及びクロスカントリースキーについては、部活動顧問の負担軽減に効果があった。また、バドミントン部の生徒は休日を休養日とするか活動日とするか選択ができ、休養日を選択した生徒は、ゆっくり休めることで、平日の学校活動に活気が出ていると学校からのフィードバックをもらっている。

保護者説明会は4回開催し、指導者の確保や参加費用の増加、練習時間・場所の変更などに対する不安の声が上がっている。本町としても受益者負担以外の財源を獲得し、安心安全なスポーツ環境を整備することを引き続き検討していく。

●今後に向けて

・まだ移行していない種目（野球、男子バスケット、剣道、ソフトテニス、バレーボール、吹奏楽）については、指導者の確保や学校、保護者と連携し、移行に向けた検討を行い、望ましいスポーツ環境を整備していく。

・令和7年度からは、地域クラブ運営を専門とするコーディネーターをたかす総合型地域スポーツクラブに配置し、保護者や学校との窓口として機能させていく。

2.実証内容と成果②

参考資料（活動写真）



【バドミントン】



【クロスカントリースキー】



【永原和可那選手講習会】



【からだづくりプログラム】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

受け皿団体の選定
移行種目の選定

令和6年

学校との調整

生徒、保護者へ
の説明
少年団との連携

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

たかす総合型地域スポーツクラブ

●経過

令和5年3月に設立し、鷹栖町より地域移行体制整備構築委託事業を受託。

●実施にあたって生じた課題

人員の確保、指導者の確保、予算の確保
地域クラブ運営方法

●実施内容、工夫した点等

町教育委員会との密な連携を図るため、クラブ事務所を教育委員会内に設置し、毎月の定例ミーティングにより連携して事業を進めることができた。

●ステークホルダー

鷹栖中学校

●経過

教員へ部活動地域移行の理解を促す説明会を実施。

教員から意見を聴取し、移行種目を選定した。

●実施にあたって生じた課題

地域移行に対する不安感から、教員からの理解や協力を得るために時間を要した。
地域クラブと学校との関わり方が不透明。

●実施内容、工夫した点等

専門指導ができる教員がいない種目を優先的に移行することで学校の負担を軽減した。
令和7年度から元中学校校長を採用し、学校と連携を一層促していく。

●ステークホルダー

少年団指導者

●経過

子どもたちのスポーツ活動の継続に対する危機感を持つ指導者が多く、地域移行に協力をいただけている。

●実施にあたって生じた課題

少年団における競技人口の減少

●実施内容、工夫した点等

少年団とたかす総合型地域スポーツクラブによる小学生対象の体験会を開催し、ミニバス少年団に10名の新規加入があった。
指導者とのミーティングにより、将来的に少年団と地域クラブを統合した形を目指し、地域スポーツの維持を図る方針を共有できた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)
鷹栖町	鷹栖町部活動地域移行検討協議会設立 小学生・中学生アンケート調査の実施 鷹栖町移行方針策定	(株)BUKARU連携協定 旭川市立大学連携協定	運営支援、新たな財源の発掘 指導者人材の発掘	参加費負担の軽減策 ・参加費以外の財源を確保し、誰でも地域クラブに参加することができる環境を整備。 ・地域スポーツの持続化を目的に、少年団と地域クラブの連携、統合に向けた検討する。
たかす総合型地域スポーツクラブ	運営主体として実証事業開始	バドミントン部移行（NexusBC設立） クロカン部移行（鷹栖町クロカンクラブ設立） 指導者確保	女子バスケ部移行（REDWOLVES設立） 指導者確保	野球、男子バスケ部移行 からだづくりプログラム・ゆるスポーツクラブによる内容充実 トレーナー雇用 理学療法士雇用 地域クラブコーディネーター雇用 ・安心安全なスポーツ環境を目的とした地域クラブコーディネーター設置による窓口の明確化。 ・健全育成を目的としたトレーナーや理学療法士によるけが予防、コンディショニング面の支援。